

【資料】令和3年度 神戸市立博物館事業自己点検評価

神戸市立博物館は下記の4項目をその「使命」として位置づけています。

- (1) 神戸を中心とする考古、歴史資料と、東西文化の交流に関する南蛮美術、古地図資料などの調査・研究・収集を通じて、多様な神戸文化の特徴と文化交流の態様を明らかにします。その成果を市民・利用者と共有するとともに、これを次世代に継承し、地域の発展に役立つ「知の拠点」となります。
- (2) 市民・利用者が、優れた国内外の文化・芸術にふれあう機会を積極的に「提供する」博物館として、また、神戸の文化にこれまででない魅力をつけ加えるために新たな調査・研究を「提案する」博物館、その成果を「発信する」博物館としての役割を果たします。
- (3) 博物館を利用するすべての人々が、知りたいこと、学びたいことに積極的に対応し、多くの利用者が、集い、楽しみ、憩うことができ、また、神戸を愛し、誇りとする拠りどころを得ることができる博物館としての役割を果たします。
- (4) 阪神淡路大震災の教訓を生かし、文化財を災害から守る重要性、コミュニティや市民の自発的な活動の大切さ、都市復興のなかで文化の果たす役割など、震災とその復興のなかで得た知見を全国に、世界に発信します。

上記の「使命」の実現のため、神戸市立博物館は下記の4つの「博物館使命の4大要素」を定め、これらが包含する事業に対する自己点検評価を行っています。

1. 歴史と文化の継承と研究
2. 歴史と文化への窓口
3. 人々とともに歩む
4. やさしさと安心の確保

令和3年度の神戸市立博物館事業自己点検評価の「総評」は下記のとおりです。

【総評】

「博物館使命の4大要素」である「1.歴史と文化の継承と研究」「2.歴史と文化への窓口」「3.人々とともに歩む」「4.やさしさと安心の確保」の4分野すべてでB評価とした。令和3年度もコロナ禍が継続しており、普及事業等で一部中止・規模縮小となった事業もあるが、特別展等多くの事業で様々な感染拡大防止対策を講じながら博物館として必要な役割を果たしてきた1年であった。

「1.歴史と文化の継承と研究」については、概ね所定の役割を果たすことができたが、資料保存について空調環境の不安定な状況が見られた。今後、原因解明等対応を検討する必要がある。

「2.歴史と文化への窓口」については、東山魁夷展、伊能忠敬展、リニューアル後初めての大型海外展となる大英博物館展と3特別展を安全に遅滞なく開催できた。その中で東山魁夷展、大英博物館展のアンケートでは当初想定以上の満足度を獲得することができ、また、伊能忠敬展では、当館で初めての試みとなるオンラインシンポジウムを実施した。コロナ禍における新たな取り組みとして評価できるのではと考えている。

広報では新たにInstagramを開設し既存のFacebook・Twitterとともに継続的な投稿に努めた。今後とも博物館の認知度向上・入館者増に向けHP・SNS・紙媒体など様々なツールの効果的な活用による情報発信に努める必要がある。

「3.人々とともに歩む」については、コロナ禍においても学校との調整の上、コロナ禍以前と変わらない連携授業が実施できた。一方、その他の普及事業・学習支援交流員の活動では様々な工夫により複数の事業は開催できたが、一部中止や規模縮小をせざるを得ない事業もあり、事業に参加できなかった応募者も見られた。この点は今後の事業実施を検討していく上での課題である。

「4.やさしさと安心の確保」については、管内にWi-Fi環境を整備し来館者へのサービス向上が図れた。施設の老朽化が進んでおり適宜、修繕・改修工事を進めていく必要があるが予算の制約もある中で適切な環境の維持、改善が図れるよう努めていく必要がある。

この度、約70年ぶりに博物館法が改正され博物館を取り巻く状況も変化してきている。その中で、今回の自己評価で明らかになった様々な課題に適切に対応していくとともに、ポストコロナも見据えながら、博物館の使命を果たしていけるよう、今後とも職員一丸となって取り組んでいく。

1. 歴史と文化の継承と研究

評価B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 令和3年度については、コロナ禍の最中でもあったが、調査研究を工夫しながら、資料の受入、保存、補修、展覧会の準備、研究成果の発信など学芸分野の根幹の業務に対応できている点は評価してよいだろう。博物館法の改正、施行(令和5年4月1日)にともなって、デジタルアーカイブの充実が努力目標となることから、これらにも注力する必要があると考えられる。令和4年度については、この点も含めて検討していくことが望まれよう。

1-1-01 資料受入

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 資料の購入では、限られた要件のなかで、各分野で適切な評価により、活用が見込める資料を効果的に充足させることができた。引き続き、購入資料の探求の継続が望まれる。資料の寄贈に関しては、特に「川口コレクション」について、受入から展示へと計画的かつ円滑につないで進捗できたことが特筆できる。

1-1-01-01 資料購入・寄贈・寄託・保管転換

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

【購入】・【寄贈】・【寄託】それぞれにおいて、博物館の収集方針や活用計画に沿った実績を目指す。

【昨年度実績】

- ・購入 11件64点
- ・寄贈 2件191点
- ・その他 2件116点
- ・寄託 1寄託者52件61点

D実施内容

【購入】 13件100点

[考古・歴史] 8件95点

平清盛と家臣(1件1点)/嘉永七年オロシヤ船入泊ニ付御固図写(1件1点)/摂州八部郡白川村文書(1件71点)/神戸税関陸上設備工事之図(第二期工事)(1件1点)/近畿中国附近遊覧案内図(1件1点)/阪神電車沿線案内(1件1点)/神戸みなとの祭実況絵葉書(1件17点)/神戸市兵庫港和田岬私立水族放養場実測三百分之壹縮図(1件2点)

[美術]2件2点

書簡(臘月九日付)(1件1点)/藍絵花卉唐草に龍文燭台(1件1点)

[古地図]3件3点

西湖之八景 武之金澤模写図(1件1点)/近国江之道程図屏風(1件1点)/[金澤より和歌山迄道中図](1件1点)

【寄贈】 14件121点

[考古・歴史]1件1点

昭和13年水害アルバム(1件1点)

[古地図]12件104点

川口氏旧蔵資料(12件104点)

[美術]1件16点

薩摩切子復元資料(1件16点)

自己評価の詳細 プラス面

【購入】

各分野で展覧会、並びに調査研究で活用が見込まれる資料・作品を加えることができた。

【寄贈】

神戸の歴史・美術・古地図に関する資料を中心に、館蔵品を拡充することができた。

「川口氏旧蔵資料」については、評価委員会の実施・篤志者表彰など受入にかかる事務が適切に行われ、受入後の速やかな公開(コレクション展示室「川口コレクション受贈記念 江戸時代の旅と名所」、令和4年2月5日(土)～令和4年3月27日(日))が実現できた。

自己評価の詳細 マイナス面

【購入】

例年指摘事項として上がる「自らの目で購入候補を探し出し、館蔵品に加えること」は、各資料担当者が調査に赴くなどし、改善がみられるものの、新型コロナウイルス感染症拡大が未だ影響しており、十分な機会を持っていない。

【受入ルール策定】

方法の別によらず、資料の受入時には必ず学芸会議において学芸員全員での実見を経て、その可否を判断している。現状ではその基準に関する明文化は難しく、具体的なルール策定には至らなかった。

1-1-02 資料保存

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 収蔵庫の生物環境に関しては、虫類の発生源を抑えることに成功したことは大きな成果であった。これに対して、展示環境の維持についてはひとつの課題が残っている。令和元年のリニューアル再開後、コレクション展示室などで空調環境が不安定な状況が続いており、その原因の追及に努めたものの、なかなか明瞭な原因をつかむことはできていない。結果的にはすべての空調設備を稼働することによって冷温水のバランスがうまく取れたのか、比較的安定した状態が維持できているが、抜本的な解決のために、関係部局などへの協議を継続したい。

1-1-02-01 収蔵庫・展示室の保存環境

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

定例の温湿度モニタリング・夏季生物環境調査、収蔵庫清掃の実施。
博物館で働く人全員に、館内で虫を発見した際の記録と、より厳格なごみの廃棄方法の変更にかかる周知と依頼を行う。
温湿度管理は、「収蔵区域」における±5%・2℃以内の変動に抑える。
中央監視室、管理課との共有をはかり、設備機器の改修にかかる中・長期的計画を立てて、予算要求を行えるようにそなえる。
環境変化に即応した対策の実施。適切な緊急時対応の実施。
温湿度のモニタリング情報の共有化の実施
館内に虫菌類が生息しにくい環境づくりを行う。

D実施内容

【4F収蔵庫の定例清掃】
毎月第3水曜日に、収蔵庫清掃を実施
清掃前日に収蔵庫内のトラップを確認し、害虫が確認された箇所を重点的に清掃した。
【燻蒸作業】(6月21日～25日／於:当館地階考古学習室)
令和4年度開催予定展覧会の借用作品(八曲一双屏風)、新規購入作品2件、ならびに今年度受贈物品のアップライトピアノ1件
【生物環境調査】(1回目:9月7日／2回目:11月9日)
館内各所でフェロモントラップ捕虫調査(70ヶ所)、空中浮遊菌の採集・培養検査(68ヶ所)、室内塵内昆虫調査(27ヶ所)
【館内殺虫業務】
12月27日 各階トイレ、カフェ水回りを含む館内47ヶ所 有機リン系殺虫剤を用いた害虫防除作業。
1月28日 地階講堂 シフェトリン炭酸製剤を用いた空間噴霧処理
【その他】
6月19日 博物館外周の鳩糞清掃
空気環境調査(公開承認施設更新手続きに伴う収蔵庫、展示室ケース、ならびにケース改修工事に伴うコレクション展示室ケース)
害虫発見記録の作成(日時、発見場所、対処等を記録。館内殺虫業務等の仕様に反映)

自己評価の詳細 プラス面

・年度初めに予定した定例の業務は実施できた。近年、収蔵庫内で冬場に多く発生していた害虫を抑えることができた。昨年度実施したカビ除菌・防虫対策の効果があつたと考えられる。継続して、定期的な防菌防除作業が必要。
・館内の関係者全員にゴミの廃棄・処理方法や害虫発見記録を共有することで、博物館環境の改善に努めた。来年度以降も継続して行う。

自己評価の詳細 マイナス面

・コレクション展示室の空調設備が設定湿度に対し、測定数値との差が著しかった。中央監視室より意見を集約し、設備課に相談したものの、解決には至っていない。
・神戸の歴史展示室は、空調稼働有無により、温湿度の変化が顕著となった。24時間の空調稼働の検討、温湿度が不安定な時期の展示資料の適切な選定などの対応が必要。

1-1-03 資料補修

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 複数年度の施工を要する資料の補修には対応しきれないことが課題として残されているが、新型コロナウイルス感染症の影響による工期不足にも臨機応変に対応することができた。また資料搬出時期を工夫することで1年の工期を確保できたのは評価できる。

1-1-03-01 資料補修

P課題と目標

・修理に要する十分な期間を設けるために、修理資料の選定を年度当初に決定する。
・展示計画、総合資料調査を行うなかで、担当者が資料の状態を的確に把握し、資料の状態に応じて速やかに修理業務を行う。

D実施内容

○新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の影響により、補修前の資料の現状調査のための日程調整が困難となり、当初修理を計画していた資料のうち一部が工期不足となった。このため、宣言期間終了後に再検討を行い、以下の資料を補修した。
・本地図屏風(南波-02-004)応急修理
・陳賢「羅漢図」(13章-軸001)ほか軸首7点復旧
※令和元年度台湾・国立故宫博物院南院への貸出時、ワシントン条約対策として一時交換した軸首の復旧
・川口氏旧蔵資料(新2021-003)和綴本19点補修
○展示計画における館蔵品の調査や資料整理及び収蔵庫の保存状況を定期的に確認する中で、当初計画にあがっていない資料保存箱や額縁の修理、模型資料の軽微な補修等を追加で実施した。
○長期間施工を必要とする候補資料のうち、下記の資料を来年度補修資料とすることを決定した。
・従高野山奥院追慈尊院路径図(新2020-004)

自己評価の詳細 プラス面

・当初の計画どおりに年度内執行が困難であると判明したにも関わらず、各資料担当者の事前準備が整っていたため、次の候補を臨機応変に選定することができた。
・来年度には、工期を十分に確保するため、長期間の施工を必要とする資料・作品の補修について、今年度中に修理先の選定を終え、修理先への資料の搬出を来年度開始当初に行うことで、1年間の工期を確保することができた。

自己評価

B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 マイナス面

・年次をまたぐ長期間施工を必要とする資料・作品の補修に対応できていない。

1-1-04 調査研究

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 事務作業が増加する中で、学芸員本来の調査研究活動を維持するのは、年々困難になっているが、それでも研究発信数が増えつつあることは評価したい。また、研究紀要所載論考のネット検索率向上についても取り組みが開始され、各自が執筆・発信することへのモチベーション向上が期待できる。

1-1-04-01 調査研究計画(自主企画展計画含む)

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

次年度以降の展覧会に向けて計画的に調査を進め、調査成果を適切に整理する。
各学芸員は調査報告書を作成する。
次年度以降の展覧会に向けて関係諸機関と調整を進める。
次年度以降の企画展の募集を行う。
次年度以降の展覧会に向けて必要な予算要求を実施する。

D実施内容

【展覧会に関する調査】
伊能忠敬展(令和3年開催):2件/出品希望資料にかかる事前調査。
川崎展(令和4年開催予定):34件/出品希望資料にかかる事前調査。
明治の写真展(令和6年以降開催予定)1件/出品希望資料にかかる事前調査。
六甲の歴史と文化展1件/出品希望資料にかかる事前調査。
京阿蘭陀展1件/出品希望資料にかかる事前調査。
鶴亭展1件/出品希望資料にかかる事前調査。
【特別展・企画展の募集】
次年度以降の展覧会企画について募集し、令和9年度までの展覧会スケジュール案を作成した。
【次年度以降の展覧会】
9月に来年度以降に開催予定の展覧会にかかる負担金、調査費の予算要求を行った。

自己評価の詳細 プラス面

・令和4年度開催予定の川崎美術館展について、出品予定作品の7割の調査を実施し、9割の出品予定作品について、出品の内諾を得ることができた。
・学芸員から展覧会案の募集を募り、令和9年度までの自主企画特別展のスケジュール案を作成することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・いくつかの展覧会について、計画的な調査計画の立案、調査実施が行われなかった。

1-1-04-02 館外資料調査

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

博物館の担当分野、個人の研究テーマに関わる館外調査を計画的に行う。
【昨年度実績】
博物館の担当分野に関わる調査件数 21件
個人の研究テーマに関わる調査件数 3件

D実施内容

【博物館の担当分野に関わる調査】22件
・考古・歴史資料:10件
・古地図資料:11件
・美術資料:1件
【派遣依頼による調査】6件
【個人のテーマ研究に関わる調査】10件

自己評価の詳細 プラス面

・全分野において、各学芸員の担当分野に関する資料調査が実施できた。なかには、調査内容を執筆などで報告することができたものがある。

自己評価の詳細 マイナス面

新型コロナウイルス感染症の影響により、状況を鑑みて調査を中止せざるを得ない場合もあった。

1-1-04-03 研究成果発信(執筆・講演・発表等)	自己評価	A 優れている
<p>P課題と目標</p> <p>・博物館の事業及び個人の研究テーマに係る研究論文(査読論文)、執筆(査読論文以外の論文、図録解説以上の解説及び報告等)、普及系記事(新聞記事など)、学会発表、講演(1h以上)などにより、研究成果を積極的に発信する。</p> <p>【昨年度実績】</p> <p>執筆33件、講演19件、発表3件、その他7件</p>	<p>D実施内容</p> <p>【執筆】41件 当館の定期刊行物(博物館だより、研究紀要、目録)8件 展覧会図録(伊能忠敬展)13件 学術雑誌・学会誌への投稿20件</p> <p>【講演】21件 特別展・企画展の記念講演会(伊能忠敬展)5件 生涯学習施設等での講演(文化センター、神戸婦人大学、いきいき勤労財団など)13件 普及事業にかかる講演(ミュージアム講座、学芸員と神戸を巡る)3件</p> <p>【発表】5件 学会発表:4件 共同研究における研究会:1件</p> <p>【その他】7件 特別展にかかる紙面記事の執筆(伊能忠敬展、川崎展)6件 学習交流員に対する研修講座1件</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <p>件数的には微増となった。</p> <p>【執筆】 今年度は、自主企画展が少なかったものの、図録のコラムや解説を担当者が複数執筆するなど、専門分野に深く踏み込んだ研究に取り組むことができた。また、各分野が個人の研究テーマに関わる執筆を実施できた。</p> <p>【講演】 特別展・企画展の記念講演会に加えて、ミュージアム講座や市内各所の生涯学習施設では、特定分野にかたよらず、神戸の歴史や館蔵品について幅広い内容の講座を実施できた。特にミュージアム講座は、異動や新規採用で新しく博物館の学芸員になった職員の経験や紹介の機会となった。</p> <p>【発表】 所属する学会や研究会での発表を行った。</p> <p>【その他】 特別展を中心に、共催新聞社の紙面に記事を掲載することで、幅広い読者に、館蔵品の魅力を発信することができた。</p>

1-1-04-04 館蔵品目録・研究紀要・年報	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <p>『研究紀要』『館蔵品目録』 令和4年3月末刊行(予定)</p> <p>『年報(令和2年度)』 令和3年9月公開(予定) ※当館HPにてPDF版</p>	<p>D実施内容</p> <p>【年報】 構成案及び担当分担承認 6月2日 原稿締切 8月4日 PDF編集 6月下旬～8月上旬 3月末に原稿を完成したが、前号が未公開のため、公開できていない。</p> <p>【紀要・目録】 令和4年3月31日:納品、発行。 ※内容は、下記のとおり</p> <p>【紀要の内容】 刊行案承認 6月2日 エントリー締切 6月29日 原稿締切 10月8日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石沢俊「川崎美術館研究(二) ―川崎正蔵の作品収集と美術館活動―」 ・中山創太「【研究ノート】輸出漆器を彩る西洋製版画」 ・間屋真一「【資料紹介】如意寺所蔵の大般若経 ―平安時代後期の混合経の一例について―」 ・山本雅和「【資料紹介】神戸市立博物館所蔵の装飾付須恵器3態」 ・阿部功「【資料紹介】石峯寺境内出土の銅板製鍍金経筒 ―保存処理作業報告―」 ・阿部功、山本雅和「失われた古墳と文化財保存運動 ―赤松コレクションの古墳群出土の資料群を取り上げて―」 <p>【目録の内容】 刊行案承認 6月2日 エントリー締切 6月29日 原稿締切 11月5日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「考古・歴史の部」37 考古資料Ⅳ 赤松コレクション ・「美術の部」37 びいどろ史料庫コレクション1 江戸時代～明治時代前期 	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <p>【紀要目録共通】 ・これまで同時に発注していた紀要と目録を分けて、見積り合わせ、発注を進めたことで、2社で分担でき、製作工程にゆとりを持つことができた。</p> <p>【紀要】 館蔵品及び神戸の歴史・文化に関する調査研究の成果を6本の論文として刊行できた。例年より原稿締切を早め、入稿前に担当者がチェックし執筆者が修正する期間を設けることができた。結果、紀要全体での表記の統一を図ることができ、入稿後の修正作業の負担が軽減された。OBからも原稿提出を受け付け、当館の紀要が所属している職員に限らない研究成果発信の機会となった点、評価できる。</p> <p>【目録】 美術の部、考古・歴史の部とも、館蔵品整理、調査研究の成果を刊行できた。例年の課題であった、判型の刷新(B5→A4)ができた。また、美術の部に関しては、カラー写真を掲載し、より充実した内容にできた。</p> <p>【ネット上での検索性向上】 今号までの紀要の目次を「全国遺跡報告総覧」に掲載し、連動したCiNii Researchでの検索が可能となった。</p>

1-1-04-05 館蔵品データベース作成		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館蔵品の棚卸を実施して資料・作品の所在確認を行い、データベースへ情報の反映と更新を行う。 ・由来未詳資料の確認を行い、データベースへの登録を進める。 ・未整理資料については、中長期的な計画を立てて整理作業を行い、今年度整理の完了したものから、データベースへの登録を進める。 ・館蔵品データベースを基にした公開資料化を進める。現在1255件の公開資料を予定数の1451件公開に向けて、写真撮影等の準備を行い、資料・作品の公開活用を行う。 	<p>D実施内容</p> <p>【未整理資料の整理と公開・活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・考古 <ul style="list-style-type: none"> 赤松コレクション:焼山古墳群出土資料、高木古墳群出土資料などの接合、実測、写真撮影を実施、データベース登録と更新を行った。成果は、コレクション展示室において「失われた古墳と救われた資料～遺跡保護運動の足跡～」【会期:令和4年2月5日(土)～3月27日(日)】として、展示を実施した。また、整理した資料を基に文章作成、整図を行い、『館蔵品目録 考古・歴史の部』第37号、及び『研究紀要』第37号に掲載して、公開活用に向けた発信を行った。 武藤コレクション:調査記録、写真類の整理作業を実施し、データベースへ登録と更新を進めて、公開活用への準備を行った。 ・歴史 <ul style="list-style-type: none"> 整理作業が完了した資料をデータベースに反映させた。また、新規購入資料9点のデータベース登録を行い、公開活用に向けた準備を行った。また、神戸の近代景観写真約100点の撮影を行った。 ・美術 <ul style="list-style-type: none"> 由来未詳資料・作品の確認作業を行い、収蔵庫3の資料・作品の整理を開始して、データベース登録への準備を始めた。 ・工芸 <ul style="list-style-type: none"> びいどろ資料コレクション:未整理作品約200点の写真撮影を実施、データベース登録を行った。成果は『館蔵品目録 美術の部』第37号に掲載して、公開活用への発信を行った。 ・古地図 <ul style="list-style-type: none"> 新規購入資料4件のデータベース登録を行い、公開活用に向けた準備を行った。 <p>【館蔵資料・作品の公開活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館蔵品データベースを基にした公開資料化を実施し、新たに17件(182点の画像の追加・更新)の館蔵資料・作品をホームページ上で公開を行った。また、引き続き館蔵資料・作品の写真撮影を実施して、公開活用に向けた準備を進めた。 	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・館蔵品の棚卸を実施することによって、由来未詳資料の解消、館蔵資料・作品の所在確認を実施し、データベース登録と更新を進めることができた。 ・未整理資料の整理作業、データベース登録の成果を展示、刊行物への掲載を通じて、公開活用の発信を行うことができた。 ・館蔵品データベースを基に公開資料化を進め、新たに館蔵資料・作品をホームページ上に公開することができた。 	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての由来未詳資料の解消が実施できていない。 ・館蔵品データベースを基にした公開資料化は、予定の1451件まで達しておらず、すべての写真撮影も完了していない。引き続き、公開資料化に向けた計画的な整理作業の実施が必要である。

2. 歴史と文化への窓口

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、東山魁夷展では一部中断を余儀なくされたが、臨時に会期を延長するなどの対応ができたことは来館者にとっては、プラスの要因であったろう。また伊能忠敬展では香取市文化会館とのオンライン講座を実施したことは感染症対策の一つの具体的対応として評価してよいだろう。これに対して、伊能展や大英展では定員を少なくしての講座等になったため多数の受講申し込みに対応できなかった点は今後の工夫を迫られた出来事でもあった。新たな試みとして広報面でInstagramを開設したが、次年度以降の課題としては、コレクション展示室の入館者増につながる効果的なSNS発信が望まれる。

2-2-01 常設展

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 神戸の歴史展示、コレクション展示は双方ともに、所定の展示を行うことができた。ただしコレクション展示入場者数は、総入館者数に対して依然として割合が低く、十分に認知されているとは言い難い状況が続いている。SNSや館内掲示のあり方を見直し、入場を促進するための新たな取組が必要である。情報コーナー及び体験学習室もコロナ禍の3密対策のため十全に稼働させるには至らなかったが、規制緩和とともに、利用促進を図るための方策を実践にうつす必要がある。

2-2-01-01 神戸の歴史展示室	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none">・交流を中心とした神戸の歴史を伝えることのできる展示を行う。・大人から子供まで楽しむことのできるわかりやすい展示を行う。・地域文化財展示室においては、中長期的な展示計画を立て、多様なテーマで神戸市と周辺地域についての展示を行う。・資料保存の観点から、展示替えを行う。	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none">・限られた展示スペースを十分に活用しながら、適宜資料の展示替えを行っており、日頃からの館蔵資料研究の成果を発信できている。・展示室内の不安定な湿度状況に対応すべく、日々状況を観察して、加湿器・除湿器を運転しながら、改善を図った。また、特に湿度変化の激しい近世のコーナーについては、湿度変化の影響を受けにくい資料の展示に変更し、対応を続けている。・令和4年1月スタートの大河ドラマ「鎌倉殿の13人」に合わせ、地域文化財展示室にて「神戸の平家物語」(2月5日～3月27日)を開催。ドラマの注目度に加え、神戸市内を中心に活動するグループ「神戸・清盛隊」からも広報協力を受け、SNS等で多くの反響を呼んだ。・JR西日本の企画「ちょこっと関西歴史たび」に合わせ、コーヒーに関する資料「豪商神兵 湊の魁」を展示。同企画のチラシにも掲載され、館蔵品や展示のPRへつなげることができた。・音声ガイド原稿を執筆し、サービスの提供につなげることができた。	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none">・展示替えが実施できていないコーナーや資料がある。夜間開館延長の増加などにより、作業可能日が限定されていることも一因だが、より計画的に進める必要がある。・展示室内の湿度が安定せず、展示資料の幅が狭まっている。湿度変化の影響を受けにくい資料の積極的な収集や、複製の作製など、計画的に進めることが必要。・音声ガイドシステムを導入したが、利用率は伸び悩んでいる。SNSなどでのPRや、コンテンツの充実を図る必要がある。・SNSでの発信が、地域文化財展示室の展示替えなど一部の話題に偏り、回数も少ない。より積極的なPRが必要。
<p>D実施内容</p> <p>【総入館者数】134,027人 ※全館臨時休館:4月25日～5月11日(新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言)、8月30日～2月4日(設備改修工事)</p> <p>【展示内容と展示替え】</p> <ul style="list-style-type: none">・[原始]「海の回廊～東アジアとの交流～」 出土資料、五色塚古墳模型等を用い、太古の神戸の人々の足跡を紹介。展示資料:五色塚古墳出土 鱈付円筒埴輪、弥生土器など30件(館蔵資料21件) 展示替え:4月6日 大歳山古墳資料 → 東求女塚古墳・へぼソ塚古墳資料 7月28日 → 大歳山古墳資料 1月5日 石製分銅(追加)・[古代中世]「大輪田泊から兵庫津へ」 文献史料、地域に伝わる有形・無形資料等を通して、古代・中世の実像を紹介。展示資料:略平家都遷、兵庫北関入船納帳(複製)など7件(館蔵資料7件) 展示替え:7月10日 摂州一の谷鶴越ヨリ義経平家ヲ攻ル図 → 室町幕府御教書(複製) など・[近世]「兵庫津の繁栄」 文献史料や絵図のほか、兵庫津模型を交え、港町として繁栄した江戸時代の兵庫の姿に迫る。展示資料:羽柴秀吉領知判物(榎井家文書)、天保山魯船図、イラストレイテッド・ロンドンニュースなど15～18件 展示替え:5月21日 摂州矢部郡車村妙法寺村石炭礦之図 → 神戸海軍操練所鬼瓦・石炭、7月29日 太平記英勇伝荒儀摂津 守村重 → 太平記英勇伝 松永大膳久英、1月6日 東海道西海道南海道絵図(複製)・兵庫津寺社方絵図 など・[近現代]「開港 ～世界との交わり」 文献史料、パンフレット、絵葉書などの資料を展示し、近現代の神戸の姿を活写。展示資料:神戸外国人居留地計画図、摂州神戸西洋館賑之図、国産第一号パーマネント機など40件程度 展示替え:7月10日 神戸名所之内 和田之岬 → 摂州神戸西洋館賑之図、1月6日 洋裁用鋏 → 豪商神兵 湊の魁、神戸市水道全図 → 神戸名所之内 蒸気車相生橋之景 など <p>・[地域文化財展示室]</p> <p>「旧居留地と近代建築」(4月3日～5月23日) 横浜正金銀行神戸支店新築工事写真など6件、「よみがえる黄金の輝き」(5月25日～7月4日) 石峯寺境内出土銅板製鍍金経筒など4件、「太山寺文書からみる中世の神戸」(7月10日～8月29日) 足利直義禁制など5件(すべて寄託資料)、「神戸の平家物語」(2月5日～3月27日) 源平合戦図屏風など3件、「新収蔵地域資料展」(3月29日～5月8日) 神戸海岸ヨリ兵庫和田ノ岬望む図など7件</p> <p>【普及事業】</p> <p>緊急事態宣言発出下、大英博物館ミイラ展開催期間をのぞいて、コレクション展示室と分担し、ギャラリートークを開催した。(ギャラリートークについては「普及事業」シートを参照)</p> <p>設備改修工事を経た2月5日の再開に際し、スマートフォン等で展示資料の解説が聞ける無料の音声ガイドを導入した。</p> <p>【令和4年度の展示計画】</p> <p>次年度の広報印刷物準備に伴い、12月に地域文化財展示室の展示計画をまとめた。</p>		

2-2-01-02 コレクション展示室		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入場者数6,000人以上(工事に伴う臨時休館5か月を勘案) ・展示替え、ギャラリートーク等の積極的な広報 ・近年の学芸員の調査研究、資料収集を反映し、資料保存を考慮した展示の実施 ・次年度以降の展示中長期計画の策定 ・新型コロナウイルス感染症の影響下において、適切なかたちで展示活動を継続する 	<p>D実施内容</p> <p>【コレクション展示室総入場者数/総入館者数】8,268人/134,027人 ※全館臨時休館:4月25日～5月11日(新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言)、8月30日～2月4日(設備改修工事)</p> <p>【国宝 桜ヶ丘銅鐸・銅戈】 国宝(銅鐸14点、銅戈7点)を通期展示。</p> <p>【聖フランシスコ・ザビエル】 重要文化財の展示は4月24日、5月12日～5月23日。左記以外は複製を展示。</p> <p>【美術】 4月3日～5月23日 「輸出漆器」(17件) 5月25日～7月4日 「司馬江漢「天球全図」ひろい世界のちいさな人間」(13件) 7月10日～8月29日 「四季の祈り—神戸中世の儀礼空間」(15件) 2月5日～3月27日 「(「川口コレクション受贈記念 江戸時代の旅と名所」に伴い、美術展示休止) 3月29日～5月8日 「隠元禅師と黄檗絵画」(6件)</p> <p>【古地図】 4月3日～5月23日 「西洋古版図Ⅰ」(11件) 5月25日～7月4日 「城下町の古地図」(6件) 7月10日～8月29日 「四季の祈り—神戸中世の儀礼空間」に伴い、古地図展示休止 2月5日～3月27日 「川口コレクション受贈記念 江戸時代の旅と名所」(14件) 3月29日～5月8日 「地図を作る人Ⅱ 森幸安」(8件)</p> <p>【びいどろ・ぎやまん・ガラス】 4月3日～5月30日 「彩(いろどり)のびいどろ」(16件) 5月31日～7月25日 「近代大阪のガラス」(11件) 7月27日～8月29日 「手彫り薩摩切子」(11件) 2月5日～3月13日 「雛(ひいな)のガラス」(10件) 3月15日～5月8日 「ガラスの文房具」(12件)</p> <p>【考古・歴史】 4月3日～5月23日 「和装にも洋装にも合う!「束髪(そくはつ)」へアアレンジ集」(7件) 5月25日～7月4日 「戦を描く」(8件) 7月10日～8月29日 「四季の祈り—神戸中世の儀礼空間」(15件) 2月5日～3月27日 「失われた古墳と救われた考古資料～遺跡保存運動の足跡～」(11件)</p> <p>* ()内は出品資料件数</p> <p>【広報】 SNSでは展示替えごとに発信し、担当学芸員が展示概要や出品資料の紹介を逐次投稿した。緊急事態宣言発出下及び大英博物館ミイラ展会期中をのぞいて、各展示でギャラリートークを開催した。(ギャラリートークについては「普及事業」シートを参照)</p> <p>【令和4年度の展示計画】 次年度の広報印刷物準備に伴い、12月に各展示室の展示計画をまとめた。</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して概ね当初計画に基づいた展示を実現できた。 ・各展示室において、学芸員が館藏品・寄託品の調査研究、収集の成果に基づき、さまざまなテーマを設定して展示を構成し、作品・資料の魅力を伝える場をつくることができた。 ・特に、「四季の祈り—神戸中世の儀礼空間」「川口コレクション受贈記念 江戸時代の旅と名所」は複数の展示室を用いて、神戸市内の寺社からの寄託品や新規収蔵資料を公開する機会となった。 	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設備改修工事を目的とした臨時休館(8月30日～2月4日)により、展示回数が減じた。 ・重要文化財「聖フランシスコ・ザビエル像」の公開時期が緊急事態宣言に伴う臨時休館と重なり、再開後も積極的な広報展開を控えざるをえなかった。 ・SNSでの発信については、展示担当者によって偏りがみられた。 ・総入館者数に対するコレクション展示室入場者数の割合が、前年度の約1/4から1/10以下へ減少することとなった。特別展目的の来館者を、コレクション展示へ誘導ができていないことが顕著である。
2-2-01-03 情報コーナー		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

<p>P課題と目標</p> <p>展覧会・展示と確実に関連付けされた図書の配架。 情報コンテンツの更新と拡充。</p>	<p>D実施内容</p> <p>【図書】 ・受入図書 960冊(購入・寄贈等。雑誌は含まない) ・情報コーナー、ミュージアムカフェ配架</p> <p>【情報コンテンツ】 ・コレクション検索 前年度の1,255件から1,272件に公開件数を増加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「神戸歴史マップ」「描かれた神戸、写された神戸」は従来と変わっていない。 	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受入図書の内容に応じて、情報コーナー、ミュージアムカフェに適切に配架できた。 ・コレクション検索機能を拡充できた。 	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会に応じた配架の変更などができなかった。 ・来館者の情報コーナー利用頻度が少ない。コレクション検索に限らず、コンテンツを拡充し、積極的にPRする必要がある。
---	---	--	--

2-2-01-04 体験学習室

P課題と目標

- ・教育普及事業の場として「子供から大人までが楽しめる」ワークショップを定期的に行えるように交流員への協力依頼と調整、アドバイスをを行う。
- ・教材、資材、子供向け書籍の維持管理を行う。
- ・昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴い、体験学習室を利用した活動を行うことが不可能となった。今年度は感染拡大の状況を観ながら、参加者の手指や使用器具の消毒、三密を避けた運営方法などの感染症拡大の防止策を行い、学習支援交流員によるワークショップを安全な状況で再開する。

D実施内容

- 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため閉鎖が継続したが、令和4年2月5日(土)に限定的に再開した。
- 【体験学習室におけるワークショップの開催】
- ・学習支援交流員による案内、来館者向けワークショップは停止。
 - ・展覧会関連・教育普及に関連する講座・イベント等の開催は、新型コロナウイルス感染症拡大による緊急事態宣言の発令等により、開催への準備を進めていた講座・イベントを含めて停止となった。
- 【夏休み土器づくり教室の作品展示】
- ・閉鎖中の体験学習室入口に展示コーナーを設けて、「夏休み土器づくり教室」の作品展示を実施した。
- ※入室せずに室外から観覧
- 令和3年8月13日(金)～8月29日(日)
- 【休館中の学習支援交流員の活動場所】
- ※体験学種室、考古学習室、講堂
- 【条件付き再開したもの】
- 令和4年2月5日(土)に再開、入口で入・退出時に手指消毒を行うことで、新型コロナウイルス感染拡大の防止策を講じた。
- ・木製パズル
 - ・年表パズル
 - ・ハンズオン教材
 - ・図書閲覧
- 【実施できなかったもの】
- ・学習支援交流員による案内、ワークショップの開催
 - ・古代衣装体験
 - ・一部のハンズオン教材(消毒用アルコールに弱い樹脂製のもの)

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 プラス面

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止策を取った上で限定的に再開した。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止策を取った上で、学習支援交流員によるワークショップの準備、新規開発の場として活用することができた。
- ・閉鎖中の体験学習室を利用することで、「夏休み土器づくり教室」参加者の作品展示の場とすることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・学習支援交流員による案内、来館者向けの各種ワークショップを開催することができなかった。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に関する緊急事態宣言の発令等により、開催への準備を進めていた講座・イベントを含めて停止せざるを得なかった。

2-2-02 特別展

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 新型コロナウイルス感染症が収束しない中ではあったが、東山魁夷展、伊能忠敬展、大英博物館展と特別展3本を安全に遅滞なく開催できた点は評価できる。東山魁夷展、大英博物館展においては、アンケートの満足度が目標を大きく上回り、コロナ禍において展覧会を開催したことへの感謝の言葉も多く寄せられた。文化や芸術の発信基地としての博物館の役割を十分に果たすことができた結果と言えよう。

一方でコロナ禍ということもあり、入館者数、収支バランスはいずれの展覧会も目標には届かなかった(大英展については3月31日時点の見通し)。この点、今後、コロナ禍の展覧会ということを十分に考慮し、計画段階での収支計画を再検討していくことが求められよう。

学芸員の日頃の研究成果を反映させた自主企画展である伊能忠敬展においては、図録の売上が目標を大きく上回り、展覧会に合わせて作成したミュージアムグッズも完売となった。また、複数会場をつないで行うオンライン講座を博物館として初めて実施して好評を得た。展示のみではなく、さまざまな取り組みにより展覧会の魅力を発信した試みは一定の成果をあげたと言える。

2-2-02-01 東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
・分かり易い展示導線と案内掲示の設定 ・コロナ禍での入場者の安全も意識した入場・誘導体制の構築 ・展覧会の魅力を周知する広報展開 ・収支バランスのとれた入場者数(75,000人)の確保 ・満足度83.0以上	【展覧会名】東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展 【会期】令和3年4月24日(土)～6月6日(日)、39日間の予定で、所定の展示作業等を終えて開幕。緊急事態宣言の発出により、4月25日(日)～5月11日(火)臨時休館。5月12日(水)から再開。また6月9日(水)まで会期を延長するとともに、本来休館日であった5月31日(月)、6月7日(月)を臨時開館。開館日数は合計28日間。当初予定されていた金曜・土曜の夜間開館は行わず、9:30～17:30を開館時間とした。 【主催】神戸市立博物館、日本経済新聞社、テレビ大阪、神戸新聞社 【特別協力】唐招提寺 【協力】長野県立美術館(旧長野県信濃美術館 東山魁夷館) 【協賛】カシオ計算機、竹中工務店、公益財団法人日本教育公務員弘済会兵庫支部 【入場者数】25,880 人 【展示概要】神戸にも縁のある日本画の巨匠・東山魁夷(1908～1999)。その代表作である唐招提寺御影堂の障壁画全68面の障壁画を、建築室内配置を完全再現した上で展示。制作過程を示すスケッチや下図(計44件)とあわせて展示。 【関連事業】当初予定されていた下記の関連事業はすべて中止。詳細は別紙一覧表を参照 【図録】1,722冊(購入率7%) 【収支バランス】収支均衡まで約15%のマイナス。 【アンケート満足度】総合的評価 89.4(スタッフの対応 90.5、展示の見やすさ 86.6、解説の内容 83.5、展示室の環境 86.6、展示品の質 92.3、図録 82.8	当館の特別展ではこれまで例のない、実物障壁画の復元展示を実現することができた。本来は唐招提寺御影堂で拝観すべきものではあるが、本来の配置を分割して展示したのが功を奏して、より近い距離からの鑑賞が可能となり、結果として満足度の向上につながったと考えられる。 共催各社の意向により、予約システムの導入は見送られた。会期後半には1階ホールに入場待ち列対応が必要となったが、映像展示を展示室内から地階講堂に移すなど、混雑回避の工夫を重ねることで、大きな混乱は発生せず、鑑賞者からのクレームも比較的少なかった。このような混雑気味の展示で、89.0を超える満足度を出せた例は希少であろう。	所定の広報を展開したにも関わらず、コロナ禍の影響が大きかったとは言え、目標の3分の1程度の入場者数にとどまったことは、リニューアル後初の本格的な美術展としては、かなり残念な数字である。 今回の障壁画展示は、予め作り込まれた復元建築によって構成されたため、本来の唐招提寺御影堂での拝観順序と異なる部分が大きかった。少数ではあるが、この点について強い不満をあらわにした入場者がいたことは、無視すべきではない。当館の展示スペースでは、唐招提寺御影堂の壁面配置をそのまま復元することは不可能であり、当館の美術館としての物理的限界を示したとも言える。

2-2-02-02 伊能図上呈200年記念特別展「伊能忠敬」		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
--------------------------------	--	------	---------------------------

<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・展覧会趣旨を反映した展示構成 ・伊能図の魅力を発信する関連イベントの開催 ・分かり易い展示導線と案内掲示の設定 ・来場者の安全を意識した入場・誘導體制の構築 ・展覧会の魅力を周知する広報展開 ・収支バランスのとれた入場者数(22,220人、有料率74%以上)の確保 ・満足度83.0以上 	<p>D実施内容</p> <p>【展覧会名】伊能図上呈200年記念特別展「伊能忠敬」</p> <p>【会期】令和3年(2021)7月10日ー8月29日(43日間)</p> <p>【主催】神戸市立博物館蔵、NHKエンタープライズ近畿、朝日新聞社</p> <p>【後援】NHK神戸放送局、国土地理院近畿地方測量部、一般社団法人日本地図センター、一般財団法人地図情報センター</p> <p>【協賛】公益財団法人日本教育公務員弘済会兵庫支部、一般財団法人みなと銀行文化振興財団</p> <p>【特別協力】徳島大学附属図書館</p> <p>【入場者数】14,019人(有料率72.29%) (内覧会含む)</p> <p>【展示概要】伊能図上呈200年を記念し、大名家旧蔵品など各地に残る伊能図の優品を一同に会するとともに、近年の伊能図研究の成果を紹介する</p> <p>【関連事業】詳細は別紙一覧表を参照</p> <p>【図録】1,129冊(購入率8%)</p> <p>【収支バランス】収支均衡まで約19%のマイナス</p> <p>【アンケート満足度】79.9%(スタッフ対応84.3、展示のみやすさ65.0、解説の内容74.8、展示室の環境82.3、展示品の質86.5、図録79.8)</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シンポジウムは、当館地階講堂と千葉県香取市の会場をオンラインで中継する形で実施した。新型コロナウイルス感染症の影響を受けて企画したもので、オンラインシンポジウムは当館では初めての試みであったが大きな問題はなく開催することができた。 ・特別展開連イベントの申込方法について、従来の往復葉書のほか神戸市イベント管理システムを活用したオンライン申込を用意したところ、すべての関連イベントで定員を大きく上回る申込があり、そのほとんどがオンライン申込であった。 ・開催したシンポジウム、伊能図トークはどちらも参加者から好評をいただき、展覧会の主旨の一つである研究成果の市民への還元に寄与することができた。 ・8件の作品解説について無料音声ガイドを用意し、会期を通して2,426人の利用があった。 ・新型コロナウイルス感染症の流行のためにショップでの図録販売について通販の対応を依頼したところ、多くの申し込みがあり、結果として図録の売上は目標の1,100冊を超えた。 	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大のため、当初計画していた東京国立博物館、早稲田大学、明治大学等への調査と借用交渉を行うことができなかった。 ・入場者数は当初見込みを下回ったが、原因の一つとして新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出自粛の影響を受けたと考えている。 ・緊急事態宣言中は学校団体の来館及びオリエンテーションを中止して、班別来館のみとしたこともあり、学校、団体の来館が少なかった。 ・金曜日と土曜日は19時30分まで開館する夜間開館を実施したが、18時以降の入場者は少なく、費用対効果を鑑みても、今後の取り組みについて検討を要する。 ・新型コロナウイルス感染症感染防止のため、当館地階講堂で開催したすべてのイベントの定員を40人としたところ、いずれも定員を大きく上回る申込があり、申込者から「当日キャンセルが出るだろうから行ったら聞けるか」などの問い合わせがあった。 ・アンケートで「地図が遠くてみえない」という意見が多く見られたが、ケースの構造上、ガラス面ギリギリまで前に出して展示することができないため、SNSを通して鑑賞に単眼鏡の持参をすすめたり、会期中から部分拡大パネルなどを増やして対応した。 ・有料率、満足度ともに目標を下回った。
---	---	---	--

2-2-02-03 大英博物館ミイラ展 古代エジプト6つの物語		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <p>展覧会を通じて、世界的にも著名な大英博物館のミイラコレクションを幅広い世代に知ってもらう機会とする。</p> <p>新型コロナウイルス感染症蔓延以降、初めての海外巡回展となる。感染状況を踏まえながら、来館者が安心して鑑賞できる環境づくりを実現する。</p> <p>・予算書の数値(収支、入館者数、有料率)の達成</p> <p>【予算書想定】入館者数:165,000人(有料率90%、2,037人)</p> <p>・アンケートなどお客様の声を通して、改善点があれば適切に対処し、満足度の向上を図る。 目標満足度83.0以上</p>	<p>D実施内容</p> <p>【展覧会名】特別展「大英博物館ミイラ展 古代エジプト6つの物語」</p> <p>【会 期】令和4年2月5日(土)～5月8日(日) 81日間</p> <p>【会 場】特別展示室1、南蛮美術館室、特別展示室2</p> <p>【主 催】神戸市立博物館、大英博物館、朝日新聞社、関西テレビ放送</p> <p>【後 援】神戸市教育委員会、Kiss FM KOBE</p> <p>【協 賛】鹿島建設、DNP大日本印刷、三菱商事、公益財団法人日本教育公務員弘済会兵庫支部</p> <p>【協 力】日本航空</p> <p>【入場者数】※57,637人(有料率:71.9%)[最終入場者数136,234人(有料率:72.6%)]</p> <p>【展示概要】CTスキャン分析がなされた大英博物館所蔵の6体のミイラを含む、250件の至宝を通じて古代エジプトの生活や文化を紹介。</p> <p>【関連事業】詳細は別紙一覧表を参照</p> <p>【図 録】※1,799冊(購入率3.12%) [4,112冊(購入率3.00%)]</p> <p>【音声ガイド】※7,993台(利用率13.9%) [20,075冊(購入率14.7%)]</p> <p>【アンケート満足度】※満足度:85.9 スタッフ対応:82.7 展示のみやすさ:82.4 解説のわかりやすさ:84.6 展示室の環境:77.5 展示品の質:90.3 図録:84.7[満足度:85.9 スタッフ対応:82.7 展示のみやすさ:82.4 解説のわかりやすさ:84.6 展示室の環境:77.5 展示品の質:90.3 図録:84.7]</p> <p>【収支バランス】92.5%</p> <p>【新型コロナウイルス感染症対策】</p> <p>入館時の手指消毒、検温、マスクを着用して入室することの依頼を徹底。</p> <p>予約優先性を採り、館内入館者の滞留数緩和を図った。</p> <p>関連事業の定員数減(記念講演会・毎週金曜日の解説会:定員50人)</p> <p>※3月31日(47/81日間)現在、[]内の数字は、会期終了後の数値。</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none"> 世界的にも著名な大英博物館のコレクションを鑑賞できる貴重な機会となっており、来館者の満足度も好評を得ている。 リニューアル以降、初めての大型海外展となったが、現在のところ大きな混乱もなく運営できている。 予約優先制を導入したが、来場者のコロナ禍慣れもあり、予約に対する顕著な苦情や不満の声も聞かれていない。 従前の来館者層ではなかった若年層や家族連れが多くみられた。広報展開(SNS、テレビ、ネット広告)を上手く活用したことも要因の一つと考えられる。 各展示室内の滞留数の上限を設定するとともに、運営スタッフと連携することで「安心して鑑賞できる環境づくり」に努めた。 	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none"> 開幕～3月21日まで新型コロナウイルス感染症にかかる「まん延防止等重点措置」の影響もあり、緩やかな開幕となった。3月31日現在、想定していた入館者数には届かなかった。 感染症対策のため、記念講演会の定員を50人に絞ったところ、350人を超える応募があった。オンラインでの開催などの希望もあったが、対応できなかった。展示室内や関連事業の実施スペースをはじめ、館内のネット環境整備も望まれる。 「予約優先制」は感染症対策として効果は見込めるものの、感染症の影響により観覧料収入減が見込まれる中で、システムの導入費や運営スタッフの増員などの費用面で負担が増えている。

2-2-03 企画展

評価 F 評価が困難

評価の詳細 年度当初に企画展の立案が複数案あり、次年度以降の開催にあたっての準備やスケジュール調整をすすめていたが、急遽外部からの特別展持ち込みがきまったこともあり、白紙となった。

2-2-03-01 「食」展(開催時期検討)

自己評価

F 評価が困難

P課題と目標

開催時期検討のため、別の形式でアウトプットできるか検討する。また、開催内容が時世に則したものか再考する。

D実施内容

【開催時期の検討】

12月 他の企画展案とあわせ、学芸課職員全員の協議の上、令和8年度までの展覧会スケジュールを仮決定。本展については、下記のとおりとなった。

開催時期: 令和6年(2024) 春期(4月～6月) 会場: 2F南蛮美術館室、特別展示室2

【企画展経費の算出】

スケジュール案を受け、企画展調整担当で、過去の展覧会経費を調査し、企画展開催にあたっての印刷物・運営・展示・造作などにかかる費用を算出した。

自己評価の詳細 プラス面

自己評価の詳細 マイナス面

・令和8年度までの計画を立てた段階で、次年度に「インド近代絵画展」の開催が急遽決定され、計画の見直しを余儀なくされた。本展も影響を受け、開催自体が白紙となった。

2-2-03-02 令和6年度以降の企画展検討

自己評価

F 評価が困難

P課題と目標

・令和6年度以降の企画展の方向性を定める。

D実施内容

【企画展案の募集】

4月21日 特別展・企画展案の募集開始(〆切5月31日) →10件の企画提出があった。

【スケジュール案の作製】

12月 上記を受け、学芸課職員全員の協議の上、提出された企画展案を令和8年度までの展覧会スケジュールに落とし込んだ。

【企画展経費の算出】

スケジュール案を受け、企画展調整担当で、過去の展覧会経費を調査し、企画展開催にあたっての印刷物・運営・展示・造作などにかかる費用を算出した。

自己評価の詳細 プラス面

・学芸員全員が企画を提出した。

自己評価の詳細 マイナス面

・次年度の予算要求を完了し、展覧会スケジュールを確定し、さらに令和8年度までの計画を立てた段階で、次年度に「インド近代絵画展」の開催が急遽決定され、計画の見直しを余儀なくされた。影響を受けた「神戸の文化財Ⅲ」「幕末・明治のカラー写真」はいずれも、当館の学芸員が企画し、準備を進めていた展覧会であり、今後展覧会を企画し、開催に結び付けていくモチベーションを低下させることとなった。

・展覧会案を募集し、スケジュールや予算の調整を行っていた企画展担当には、外部からの特別展持ち込みの情報は共有されておらず、最終的なスケジュール確定に関与することができなかった。

・準備の最中での開催期間の変更は、マスコミ各社との共催調整や、所蔵者との借用交渉など、展覧会開催の根幹にかかる部分に大きく影響する。今後、これまでのように学芸員が研究成果を蓄積し、数年の期間をかけて準備を重ねる自主企画展を開催することが難しくなってしまった。

2-2-04 特別利用等

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 画像や資料の利用・貸出に関する規定が整備され、その事務手続きに於いて公印廃止や電子メール対応が可能となった点は、官公庁全般で業務改革(もしくはDX)が叫ばれている中で、順当な方向に進んでいると思われる。館外貸出については、コロナ禍の規制緩和とともに件数が大幅に増加することが想定されており、より一層の安全かつ確実な業務の遂行のため、さらなる業務改善の余地がないか、常に検討を重ねる必要がある。

2-2-04-01 特別利用・画像利用・画像提供

P課題と目標

申請及び申込に対する手続きを迅速かつ適切に行う。
手続き中に発生した問題を記録し、来年度以降の運用方法、契約内容に反映する。

D実施内容

【特別利用】申請31件528点
内訳)熟覧28件/模写0件/模造0件/撮影28件/その他3件
【画像利用】申請172件 610点
ア)国、地方公共団体が公共の目的でその事業の用途として利用するため申請するとき。/43件82点
イ)学校教育法第1条に規定する学校(大学は除く。)の教科書、学校(大学は除く。)が作成する教材の用途として利用するとき。/15件30点
ウ)博物館が調査研究、展示、広報等の用途として利用するため申請するとき。/41件139点
エ)営利を目的としない個人、団体が、営利を目的としない学術書(発行部数1,000部以下)、又は学術雑誌、調査報告書等
もっぱら学術研究の用途として利用するとき。/72件358点
オ)その他、神戸市教育委員会が特に必要と認める利用のとき。/1件1点
【画像提供】 425件681点
イメージアーカイブ登録686件
【内規整備】
・画像利用に関して、今年度から公印を省略し、申請の受付及び画像データの送付を電子メールでの対応を開始した。
・令和4年度から、画像利用のメールアドレスを全員登録し、資料担当者が画像を送るように運用を変更する旨、学芸会議で承諾された。また、適当な大きさの送付用画像をデータベースに入れ、次回以降利用できるようにする。

B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態) 自己評価

自己評価の詳細 プラス面

【特別利用】
・申請手続きを怠ることなく、スムーズに実施できた。
【画像利用】
・申請手続きを怠ることなく、迅速・適切に取り組めた。
・メールでの画像利用申請を開始し、利用者の便を図ることができた。
【画像提供】
・業務委託業者と適宜連絡を取り合い、大きな遅延もなく提供を進めることができた。
・料金表を見直し、テレビ番組などで一年間に多数の再放送をする場合や、HPなどで半永久的に掲載する場合に適用できるセット料金を新設し、利用者に何度も再申請させる煩雑さを解消できた。
・再利用にかかる割引のルールを整備し、委託業者と共有したことで、料金案内にかかる煩雑さを軽減し、請求時の誤りを減らすことに繋がった。

自己評価の詳細 マイナス面

【特別利用】
・庁内用での手続きの際、書式に支障があることが発覚した。
【画像利用】
・申請が簡便になったため、博物館の利用区分に該当しない申請が多く見受けられた。
【画像提供】
・コロナ禍による予算削減の煽りを受け、画像利用料からの資料購入費の積立が例年の1,000千円から830千円へ減少した。また、利用区分の見直しや、委託料に関する調整を進めることができなかった。

P課題と目標

申請及び申込に対する手続きを迅速かつ適切に行う。
申請手続きを整理し、よりスムーズな手続きとなるようにする。

D実施内容

館外貸出実績： 11ヶ所 107件167点
○神戸市埋蔵文化財センター
春季企画展「国史跡・五色塚古墳のあゆみ」(会期:4月17日～7月25日)
石刃、有茎尖頭器など9件68点
○長崎歴史文化博物館 「長崎開港450周年記念展－ふたつの開港－」(会期:4月24日～6月6日)
豊臣秀吉朱印状鍋島直茂宛など8件8点
○佐賀県立美術館 特別展「白馬、翔びたつー黒田清輝と岡田三郎助ー」(9月7日～10月17日)
百武兼行「裸婦図」1件1点
○サントリー美術館 特別展「聖徳太子」(会期:11月17日～2022年1月10日)
国指定重要文化財 木造南無仏太子像(善福寺蔵)1件1点
○九州国立博物館 特別展「海幸山幸ー祈りと恵みの風景ー」(10月9日～12月5日)
国宝「桜ヶ丘5号銅鐸」 1件1点
○岐阜市歴史博物館 特別展「波濤を越えてー鑑真和上と美濃の僧・栄叡ー」(10月8日～11月23日)
遣唐使船模型 1件1点
○中之島香雪美術館 特別展「柳橋水車図の世界」(10月2日～2021年11月21日)
洛外鳥瞰図屏風 1件2点
○たつの市立龍野歴史文化資料館 特別展「武士の心得ー脇坂家家中に伝わった宝物ー」
垣屋文書の内「応仁元年7月20日 山名持豊感状」など8件8点
○佐野常民記念館 佐野常民と三重津海軍所跡の歴史館リニューアルオープニング記念企画展「巨艦艦ヲ列ヌル三重津へ海軍取調方佐野常民へ」(9月25日～11月14日)
神戸海軍操練所鬼瓦 1件1点
○神戸ゆかりの美術館「海を渡った版画家たち～平塚運一と神原浩～」(2022年1月15日～3月27日)
神原浩「外国風景」など74件74点
○京都国立近代美術館 特別展「サロン！ 雅と俗一京の大家と知られざる大坂画壇」(2021年3月23日～5月8日)
熊斐筆「清泉白鶴図」など2件2点
※空調工事期間中(9月～12月)も問題なく貸出対応を実施した。

自己評価の詳細 プラス面

・今年度より、書類提出後の修正を減らすために、担当者間での事前確認の場を設けるようにしたため、スムーズな運用ができた。これにより、書類の再提出を依頼する機会は発生しなかった。
・大きなトラブルもなく貸出対応・手続きを円滑に実施できた。
・市長の補助機関の内部組織に対する貸出について、取扱い方針が改められ、より簡便な手続きが可能となった。

自己評価の詳細 マイナス面

2-2-05 広報

評価 A 優れている

評価の詳細 紙媒体による広報に加え、HP、SNS等を用いて効果的な広報が実施できた。新型コロナウイルス感染症の急拡大に伴う臨時休館や夜間開館とりやめなどについても迅速に情報発信を実施できた。
特に博物館だよりとカレンダーを統合し、コストダウンを実現するとともに多様な層にとってより親しみやすい広報紙を新たに作成できた点は高く評価できる。また、Instagramを新たに導入し、SNSによる発信を一層充実できた。

2-2-05-01 HP、SNS

P課題と目標

- ・【HP】更新作業フローの見える化を行い、遅滞なく適したタイミングで更新できるようルール整備を行う。
- ・【HP】館蔵品データベースを基にした公開資料化を進める。現在1255件の公開資料を予定数の1451件公開に向けて、写真撮影等の準備を行い、資料・作品の公開活用を行う。
- ・【SNS】Facebook、Twitterについて現状分析を行い課題を抽出し、改善に向けた対策案に基づいた年間計画を作成し、実行する。
- ・【SNS】Instagramアカウントの開設及び発信ルールの整備を行う。
- ・【HP/SNS】長期休館中も定期的に発信業務を行えるよう、発信計画を立て実行する。

D実施内容

- 【HP】
 - ・委託業者による更新件数 107件
 - ・職員による更新件数 14件
 - ・訪問者数 496,113アクセス
 - ・HPのマニュアル整備 完了
 - ・コレクションページの登録件数 1,272件(17件追加)
- 【SNS(長期休館中の投稿計画)】
10月13日の学芸会議にて原稿執筆の依頼とスケジュールを共有し、計画通り投稿することができた。(依頼件数41件)
- 【Instagram】
12月4日 アカウントを開設した。
- 【SNS】
Facebook
投稿数112件、フォロワー数3,646、リーチ数155,585件(1投稿あたり1,389)
Twitter
投稿数228件、フォロワー数12,253、インプレッション数1,217,312件(1投稿あたり5,340)
Instagram
投稿数39件、フォロワー数589、インプレッション数24,367件(1投稿あたり625)
※本年度よりTwitterにて「夜間開館」「休館日」を定期投稿しているため、前年度より大幅に増加している。

自己評価の詳細 プラス面

- 【HP】
展覧会やイベント告知など、遅滞なく情報を掲載することができた。また担当者がCMS機能を習得し、これまで委託業者に依頼していた細微なテキスト修正など自館で迅速に行うことができるようになった。
新たに17件のコレクションを公開した。
- 【SNS】
展覧会、コレクション展示、イベント告知、夜間開館、休館日など遅滞なく投稿を行い、また、長期休館中も投稿計画を立て発信を行うことができた。12月にはInstagramのアカウントを開設し、ルールに沿って継続的な投稿を実施できている。Facebookはユーザーが減少傾向にあり当館でも例年より増加率が下回ったが、Twitterとともに昨年度より増加した。(増加率昨年度比 Facebook 104.6%、Twitter 110.3%)

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

自己評価の詳細 マイナス面

- ・基本情報の発信は滞りなく実施できたが、学芸員による自発的な投稿にばらつきがあった。特に展覧会開催中は多忙のためSNS投稿が停滞しがちになるが、魅力発信・来館促進のためにも会期中の積極的な投稿が重要。担当者の意識を高めるとともに、SNS担当者においても計画通りに投稿がなされているか随時確認することが必要。

2-2-05-02 印刷物製作(博物館だより・展覧会予定等)	自己評価	S 特に優れている
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館だよりを秋、春2回発行(120号は11月、121号は3月下旬)。 ・博物館だより、カレンダーのあり方を再検討し、ニーズに合わせて従来のデザインを変更し、合わせて発行部数の見直しを行う。 ・博物館だよりについて、来館者への館内での配布、関連施設への発送を行う。あわせて、博物館だよりのホームページにおける公開、SNSでの紹介を行う。 	<p>D実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・従来別の印刷物であった博物館だよりとカレンダー両者を統合して、来館者が手に取りやすく、神戸市立博物館をもっと身近に感じていただけるような広報紙の作成を目指して仕様の見直しを行った。判型は目を引きかつ持ち帰りやすい変形B5サイズとし、デザインについては段組みを取り払い、写真を多用した、より親しみやすい紙面構成に変更した。 ・博物館だより(カレンダー機能を兼ねる)を冬・春2回発行した。 <ul style="list-style-type: none"> 120号:1月18日発行(変形B5版8ページ) 121号:3月25日発行(変形B5版8ページ) ・配布期間中の来館者数を予測し、博物館だよりの部数の見直しを行った。 <ul style="list-style-type: none"> 120号:4,000部 121号:7,000部 (参考 博物館だより118号:4,000部、119号:7,000部 カレンダー2021【8月までの展覧会を掲載】:20,000部) ・博物館だより及びカレンダーについて、来館者に向けて館内での配布を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 配布場所:情報コーナー、ちらし置き場、インフォメーションカウンター ・博物館だより及びカレンダーによる広報のため、館外での配布を依頼し、関連施設への発送を行った。 <ul style="list-style-type: none"> 発送先:さんちかインフォメーション、小磯記念美術館、神戸ゆかりの美術館、市立図書館等 ・博物館だより120号、121号のPDFをホームページに掲載した。 ・博物館だよりについてFacebook(令和4年1月21日、3月29日)、Twitter(令和4年1月22日、3月29日)、Instagram(令和4年1月22日、3月29日)で紹介を行った。 	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・博物館だよりとカレンダーを統合し、印刷部数について、カレンダーの刊行部数約20,000～40,000部を削減した。一方でオンラインでのPDF公開を継続的に行い、部数減を補うとともに、離れた居住地の方や以前の号を読みたい方にも閲覧いただけるようにした。 ・博物館だよりについて、掲載する特別展、コレクション展示の内容について調整を行いながら、ほぼ予定通り発行することができた。 ・120号について、1ヶ月の間に部数のほぼ全てを配布し終えることができた。 ・博物館だより及びカレンダーについて、配布場所のうち特に目立つ位置に配架し、来館者への配布を促進した。 ・関連施設へ発送を行い、博物館の活動を広報することができた。 ・SNSでの紹介によって、博物館だよりのデザインを変更したことを知っていただくことができた。
<p>2-2-05-03 その他広報活動(取材・掲載対応)</p>	<p>自己評価</p>	<p>B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)</p>

2-2-05-03 その他広報活動(取材・掲載対応)	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材申し込みに対して、処理状況リストを共有し、適切な情報発信に努める。 ・既存の広報媒体への掲載について、年間計画・役割分担を館内共有した上、適切に対応する。また、主体的な広報活動への強い意識を持ち、従来の情報発信に加え質・量ともに充実させる。前年の件数を上回る広報活動を行う。 ・来館者の目に入りやすい・手に取りやすい館内外掲示を心掛け、掲示物コーナーの視認性を高める工夫をする。 	<p>D実施内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取材申し込み対応 22件 ・記者資料提供 15件 ・神戸市関係の広報媒体(広報紙KOBÉ、あじさい通信、KOBÉ C 情報)への情報提供 9件 ・その他広報媒体への情報提供 71件 ・館外掲示板の補修 	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広報媒体への情報提供について、年間計画をもとに素早く適切に対応できたことに加え、一方でコストに対する宣伝効果が見込めない媒体については情報提供しない選択をするなど、効率的な広報活動に向けて適切な判断を行った。 ・館内外掲示について、サイネージの更新を計画に基づいて適切に行い、特別展に合わせたレイアウトやデザインを作成し、目に留まりやすくわかりやすい掲示物の作成ができた。
<p>自己評価</p>	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p>	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う緊急事態宣言発令やまん延防止対策実施の影響を受け、前年度よりも記者資料提供や広報媒体への情報提供の件数が減少した。 ・外部からのメール処理について、対応者に偏りがあった。

2-2-06 広聴

評価 A 優れている

評価の詳細 来館者記入型のアンケートを実施し、アンケート結果の速やかなフィードバックを実施できた点が評価できる。また、従来の展覧会と詳細に比較検討ができるように蓄積されたアンケートデータを整理するとともに、より細やかなアンケート分析ができるよう入力フォーマットを整えた点が高く評価できる。来年度以降、より多様な意見を集約できるよう、記述式以外のアンケートについてもシステム構築していくこととしたい。

2-2-06-01 広聴(展覧会等アンケート調査実施、結果集計)

自己評価

A 優れている

P課題と目標

・特別展、コレクション展示、1階無料ゾーンを対象とした記述式アンケートを実施。
・今までのアンケート結果を分析し、展示、運営に反映。
・記述式アンケートに加え、ICTを活用したアンケートを導入する。

D実施内容

特別展、常設展期間中に、館内にアンケート用紙・回収箱を設置し、広聴活動を実施。回収した用紙は、日々回収、集計、回覧している。
・「東山魁夷展」(4月24日～6月9日)
1階ホールに用紙・回収箱を設置
回収枚数:204枚(入館者数:25,880人) 展覧会の総合評価:89.4
・「伊能忠敬展」(7月10日～8月29日)
3階特別展示室1出口(展覧会順路出口)、1階ホールに用紙・回収箱を設置
回収枚数:425枚(入館者数:14,019人) 展覧会の総合評価:79.9
・「大英博物館ミイラ展」(2月5日～5月8日)
1階ホール、1階体験学習室前に用紙・回収箱を設置
回収枚数:257枚(入館者数:57,442人) 展覧会の総合評価:90.1 (3月31日時点)

自己評価の詳細 プラス面

・来館者記入型のアンケートを遅滞なく実施し、可能な限り展示や運営にフィードバックすることができた。
・展覧会の様子を確認しながら、回収箱の設置場所を変更したことで、アンケートの回収率が増加した。
・アンケートの結果を入力するエクセルのフォーマットを作成したことにより、来場者の特性や傾向等をより細かく分析できるようになった。

自己評価の詳細 マイナス面

・記述式アンケート以外の広聴を導入することができなかった。

2-2-07 ミュージアムショップ

評価 A 優れている

評価の詳細 特別展「伊能忠敬展」のグッズとして、開発・製作したグッズ(三角スケール)が、想定以上に購入のご希望があり、3回に及ぶ増産にもかかわらず、会期の終了を待たずに完売したことは特筆できる。SNSでの発信も効果的であったと推測される。ここまでの需要があったことは、何らかの方法で購買者のニーズを的確に把握することを探りながらグッズ開発に活かす配慮が必要かと思われる。年度末に作製した「トートバッグ」の購買状況を注視していきたい。グッズや図録等書籍の在庫管理方法に関しては課題が残されているが、管理課・学芸課・ショップとの協議をふまえながら、的確な現状把握に基づき、ヒット商品を目指したグッズ開発に努めていきたい。

2-2-07-01 ミュージアムグッズ開発

自己評価

S 特に優れている

P課題と目標

・收藏品によるオリジナルミュージアムグッズを作成、特別展にあわせて販売する。
・在庫管理簿、在庫管理課を一元化するために、管理課と学芸課の協議と意思統一を図る。

D実施内容

【製作】

・伊能忠敬三角スケール(「大日本輿地図彙」当館蔵)
数量 200個(50個×4色:白、黒、青、赤)×4回入荷=800個
納品 令和3年7月7日(「伊能忠敬展」の開幕、7月10日より販売開始)、7月20日(再入荷)、8月3日(再入荷)、8月6日(再入荷)
販売数 800個(令和3年8月20日まで【閉幕以前に完売】)
・絵葉書
数量 4,800枚(1,200枚×4種類:「南蛮屏風(左隻)」当館蔵、「南蛮屏風(右隻)」当館蔵、「日本輿地図彙」当館蔵、「聖フランシスコ・ザビエル像」当館蔵)
納品 令和3年7月8日(「伊能忠敬展」の開幕、7月10日より販売開始)
販売数 南蛮屏風(左隻)69枚、南蛮屏風(右隻)46枚、日本輿地図彙673枚(令和4年3月31日時点)、聖フランシスコ・ザビエル像0枚(前回制作分完売後販売開始のため)
・博物館建築図面トートバッグ(「横浜正金銀行神戸支店新築図面」当館蔵)
数量 400個(100個×2種類:Sサイズ、Mサイズ×2色:ナチュラル、ネイビー)
納品 令和4年3月23日(3月29日より販売開始)
販売数 Sサイズナチュラル4個、Sサイズネイビー4個、Mサイズナチュラル5個、Mサイズネイビー3個(令和4年3月31日時点)

【広報】

・SNS

Facebook: 令和3年7月13日、7月14日、7月16日、7月21日、7月31日、8月4日、令和4年3月29日
Twitter: 令和3年7月13日、7月14日、7月16日、7月21日、7月30日、8月4日、8月5日、令和4年3月29日
Instagram(令和3年12月4日開設): 令和4年3月29日

自己評価の詳細 プラス面

・收藏品によるオリジナルミュージアムグッズを作成、特別展にあわせて販売し、当初の想定を上回る販売数となった。
・管理課と学芸課、さらにショップを加えた対面での、業務改善へ向けた協議を行った。
・オリジナルミュージアムグッズの陳列棚を整備拡張し、開催中の展示とグッズを関連づけるポップを作成することができた。
・販売商品マスタデータを作成したことにより、月ごとの売上分析を行うことができ、陳列棚へのグッズ配置の検討材料とすることができた。

自己評価の詳細 マイナス面

・図録の在庫管理、ショップへの譲渡が管理課と学芸課との間で一元的に運用できていない。

3. 人々とともに歩む

評価B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 新型コロナウイルス感染症対策がとられるなかで、工夫をこらしながら各種普及事業に取り組んだ姿勢は評価してよいだろう。その一方で定員を削減しながらの実施については回数を工夫するなどの対処方法を考慮すべきであった。来年度以降についてはこの点に検討を加えながら、日常に戻していくような取り組みも検討課題である。学校来館については旧に復していないが、連携授業は例年どおり取り組まれており、非常に有意義な活動となっている。欲を言えば、新学習指導要領に則したプログラムへの改良、オンラインによるオリエンテーションの取り組みも必要であろう。

3-3-01 普及事業

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 新型コロナウイルス感染症拡大防止策をした上で、ミュージアム講座等複数の講座を開催することができた。ただし、規模を縮小し、人数を限定しての実施となったため、WEBによる予約システムの活用によって応募者は増加したものの、落選者も多いことから不満を抱かれる応募者もあった。また、実施会場への交通手段や費用対効果の課題も明確になったので、次年度はこれらを解消するための取り組みが必要である。

3-3-01-01 一般向け普及事業(館内オリエンテーション含む)

P課題と目標

・「ミュージアム講座」 「学芸員と神戸を巡る」について、参加者内80%以上の高評価を得られるよう、安全面に配慮した会場・プログラムづくりと充実した内容の提供を目指す。

・「障がい者のための鑑賞会」「未就学児と保護者のための鑑賞会」や、一般向けオリエンテーション、ギャラリートークについて、積極的に告知・開催する。また各種鑑賞会についてはアンケートを実施、参加者の意見を集約させ、継続の意義や課題を明らかにする。

・昨年はスケジュールや新型コロナウイルス感染症拡大に伴う対策等で開催できなかった講座「大人のための浮世絵摺り入門」「博物館をたのしむ」を、安全に十分配慮した上で開催する。

D実施内容

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止策を実施した上で各事業を開催した。具体的な防止策として、定員の少数制限、手指アルコール消毒と検温の徹底、使用バインダー・ペグシル・座席の適宜消毒、窓の開閉やサーキュレーターによる会場内の換気(室内での開催事業)、参加者間の間隔の確保、参加者の連絡先の記録を実施。

【ミュージアム講座】全3回、定員40人、申込56人

- ・10月21日(木)・11月18日(木)・12月16日(木) のべ102人参加
- ・アンケート結果(34人分回収の内)
- スタッフの対応:「良い」「まあ良い」…33人(約97%)
- 内容:「わかりやすい」「まあわかりやすい」…30人(約88%)
- 時間:「ちょうどよい」…34人(約100%)
- 量:「ちょうどよい」…34人(約100%)

【学芸員と神戸を巡る】全1回、定員15人、申込119人、参加15人

- ・11月14日(日)、11月21日(日)「古仏巡礼―神戸の古層にふれる旅―」
- ・アンケート結果(14人分回収の内)
- 内容:「良い」「まあ良い」…14人(100%)
- 説明:「わかりやすい」「まあわかりやすい」…14人(100%)
- スタッフの説明や対応:「良い」「まあ良い」…14人(100%)
- 時間:「ちょうどよい」…14人(100%)

【ギャラリートーク】毎週土曜日14時～14時15分(4～6月)/毎週日曜14時～14時15分(7～8月)、各回定員5～10人

- ・のべ10回開催 参加者計71人
- ・アンケート結果(66人分回収の内)
- 内容:「とても満足」「満足」…58人(約87%)
- 時間:「ちょうどよい」…61人(約92%)

【障がい者のための鑑賞会】全1回、参加131人

【未就学児と保護者のための鑑賞会】全1回、参加64人

- ・3月7日(月)※「大英博物館 ミイラ展」会期中
- ・アンケート結果(11人分回収の内)
- 内容:「とても満足した」「満足した」…11人(100%)
- 時間:「ちょうどよい」…11人(100%)

【大人のための浮世絵摺り入門】全1回、定員8人、申込者35人、参加者6人

- ・6月27日(日)
- ・アンケート結果(6人分回収の内)
- 内容:「よかった」…6人(100%)
- 対応:「よかった」「まあよかった」…6人(100%)
- 時間:「ちょうどよい」…3人(50%)※「短い」と回答したのが50%

【博物館を楽しむ】開催できず

B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態) 自己評価

自己評価の詳細 プラス面

・新型コロナウイルス感染症拡大の防止策を行ったことで、感染の発生やリスクを生じさせることなく、安全に各事業を開催することができた。

・ミュージアム講座では、空調工事中で換気が不十分な講堂ではなく、館外に別途会場を設けたことで、安全な環境で学芸員の研究成果を発信することができた。

・学芸員と神戸を巡るでは、講座会場を別途設け、バスの座席指定や見学時のグループ分けを行うことで、安全面に十分配慮することができた。バスで巡ったことで、神戸広域の歴史や史跡の魅力を知る機会を提供することができた。

・ギャラリートークでは、定員を10人か5人に絞り、事前の告知をHPやSNSで発信することで、安全な感染予防を実施することができた。前年度に引き続き、幅広い層に参加いただけたほか、リピーターの来館者も見られ、イベントとして定着したと感じた。

・未就学児と保護者のための鑑賞会は、「大英博物館ミイラ展」で実施し、多くの来館者に利用いただいた。アンケートにおいても好評をいただいた。

自己評価の詳細 マイナス面

・今年度より本格的にweb申し込み制を導入したが、当落通知メールの内容が伝わりづらく、問い合わせやトラブルが発生した。

・ミュージアム講座では、昨年に引き続き定員を減らさざるを得なかった。開催数も年6回から3回と半減での開催となった。

・未就学児と保護者のための鑑賞会では、特にグッズ購入がしたかったとの意見があり、より深い配慮が必要であった。

・博物館を楽しむの開催を目指していたが、スケジュールの都合や感染状況の影響で開催することができなかった。

3-3-01-02 子供向け普及事業(土器作り教室含む)

B 標準(求められる能力や役割を
自己評価 果たしている状態)

P課題と目標

- ・子供向け普及事業の開催は、開かれた博物館として教育普及活動の重要な事業のひとつである。子供たちに博物館での学びの楽しさを体験させるため、積極的に実施する。
- ・展覧会に関連した魅力ある子供向けのプログラムを実施する。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止を含めた新たな運用方法も積極的に試みる。

D実施内容

- ①ジュニアミュージアム講座
「水墨画で描く山の風景」 5月2日(日) 参加費500円 申込者42人 ※新型コロナウイルス感染症の影響で中止
「コーヒー染めで作るアンティーク古地図」 8月1日(日) 参加費500円 午前の部 参加者8人 申込者85人
午後の部 参加者6人(欠席2人) 申込者41人
- ②浮世絵の摺り師に挑戦！ 6月27日(日) こどもの部 参加費500円 参加者8人 申込者13人(抽選)
おとなの部 参加費1,000円 参加者6人(欠席2人) 申込者35人
- ③夏休み土器作り教室 参加費2,000円
成形日1班 7月24日(土) 参加者10人 申込者25人
成形日2班 7月25日(日) 参加者10人 申込者41人
焼成日 8月8日(日) 神戸市立自然の家で実施
- ④博物館たんけん隊 8月22日(日)
「バックヤードツアー」 ※新型コロナウイルス感染症の影響で中止
- ⑤こうべ歴史たんけん隊 3月13日(日) 参加費2,000円(子ども1人+保護者1人)
「神戸の古代遺跡を見学しよう！」 参加者18人 申込者36人
- ⑥こどもの日スペシャル
「親子鑑賞会」 ※新型コロナ感染症の影響で中止

【参加者の声】

学校の図工の時間に1回やったことがありますが、今日のほうがすごく楽しかったです。もしまたあったらぜひ行ってみたいと思いました。

自己評価の詳細 プラス面

- ・オンラインによる申込やすさから抽選になるほどの多数の応募があった。
- ・ジュニアミュージアム講座では午前、午後の部と分けて実施することで昨年度より多い人数で実施することができた。
- ・土器作り教室は2日間に分けることでより多い人数で実施することができた。
- ・こうべ歴史たんけん隊は、特別展の大英博物館ミイラ展に関連させ実施した。神戸市外からの参加者が多かった。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・新型コロナウイルス感染症の状況に伴い、多数のイベントが中止になった。
- ・多数の応募を想定していなかったため。落選者が多く、不満を抱かれる申込者が多かった。
- ・イベント当選者の方でも、当日忘れていて不参加となることがあった。
- ・土器づくり教室では、参加費の収入に対する実質支出がとても多かった。令和4年度は、埋蔵文化財センターとの共同開催とし、支出面での検討を重ねている。

3-3-02 博学連携

評価 A 優れている

評価の詳細 連携授業は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を実施し、安全に努めることで100回以上の授業が実施できた。また、来館校へにむけてのオリエンテーションの実施は見送り、特別展の入場の際には予約した上での来館を案内し、オンラインでの開催も試行的に実施できた。また、受付業務の効率化の取り組みも行われ、担当者の負担軽減にもつながりつつある。博物館実習においても新型コロナウイルス感染症拡大防止策をした上での実施となったため、実習生の人数は合計16人となったが、実習生、職員とも健康に留意し、感染者が出ず、全実習生が実習を修了できた。また新たに阪神・淡路大震災における当館の被災状況に関する講義を追加してことで、当館で実施する意義が増えた。

3-3-02-01 連携授業（館内オリエンテーション含む）

P課題と目標

博物館所蔵資料と関連づけた連携授業を、授業の進度にあわせ、学校と緊密に連携しながら実施する。

- ・連携授業については、毎年100回以上実施されている。昨年度から緊急事態宣言等の影響で実施が困難な状況になっているが、感染対策を行い、年間でのべ100回以上実施する。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止を意識した授業進行の修正や、あらたにパワーポイント資料を作成するなど、時間配分と内容の見直しを行う。

D実施内容

【スケジュール】
年度末に学校グループウェアで通知した博物館利用案内と神戸市立博物館公式サイトで連携授業プログラムを紹介した。

【連携授業実施学校数、人数等】

- ・75校(のべ143校)(小学校123、中学校16、高等学校1、特別支援学校3)
- ・143回(400時間)(小学校348、中学校44、高等学校1、特別支援学校7)、のべ10,330人

・授業内訳

- 古代体験17回、土器3回、銅鐸3回、源平25回、西洋29回、伊能図24回、文明開化18回、浮世絵14回、水墨画5回、港の発展3回、その他2回

・学芸員の同行

- 学芸員9人、23校の授業に同行、より専門的な説明を行い、授業を補助した。

【移動博物館おきしお夢はこぶ号の活動】
出動回数16回(16校)

【学校来館と館内オリエンテーション】

- ・32校(小学校6、中学校24、高等学校2)
- ・来館人数2,082人(引率者含む)
- ・オンラインによるORを1校

【職業インタビュー(トライやる・ウィークの代替)】
3校14人(11月8日小部中2人、11月9日本山南中4人、11月12日塩屋中8人)

自己評価

自己評価の詳細 プラス面

- ・連携授業は、緊急事態宣言や学年・学級閉鎖による中止があったが、学校側とスケジュール調整を行いながら、100回以上の授業実施ができた。
- ・今年度は、特に中学校での実施が多く、10校以上の授業実施ができた。社会科・美術科以外に、国語科での授業依頼が2校あった。
- ・盲学校ではさわれる教材などを使った授業を行い、児童生徒1人1人のニーズに合った授業を実施できた。
- ・特別支援学校では、移動が困難な生徒や密になる空間を避けるための工夫を行った。全体説明やデモンストレーションをライブ配信し、各教室に映像をとばすなど、端末やビデオ通話ソフトを使った授業を行った。
- ・おきしお夢はこぶ号を、10回以上使用できた。
- ・多くの学芸員と授業に同行し、より専門的な説明・解説ができた。
- ・学校来館は、工事休館明けの2月から予約が増え、昨年度より来館数が増えた。
- ・来年度に向け、試験的にオンラインによるオリエンテーションを実施した。
- ・トライやる・ウィークは実施できなかったが、代替として職業インタビューを実施し、計3校受け入れた。
- ・連携授業の申込みにオンライン申込を導入し、年度当初の授業受付にかかる負担を軽減できた。

S 特に優れている

自己評価の詳細 マイナス面

- ・学校来館については、特別展のチケット予約を行うことにしたため、予約できない、キャンセルできないとの不満の声が聞かれた。
- ・1日の学校来館が多く、スタッフや受付の対応が大変な日があった。
- ・今年度も、新型コロナウイルス感染症の状況により学校向けオリエンテーションを開催しなかった。

3-3-02-02 大学との連携		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 神戸松蔭女子学院大学、神戸市外国語大学との連携協定にもとづき、双方の強みを活かした事業を企画し、円滑・安全に実施する。 <p>【昨年度実績】</p> <p>神戸松蔭女子学院大学 神戸研究総論への出講はコロナ禍によりすべて中止。特別展「つなぐ」における神戸松蔭女子学院大学との連携事業紹介展示特別展「つなぐ」における特別講演会「図様で『つながる』絵画」(講師:神戸外国語大学、馬渕美帆教授)</p>	<p>D実施内容</p> <p>【神戸松蔭女子学院大学との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「神戸研究総論」への出講 5～7月 6回 履修者数52人 <p>受講生のコメントシートには、「居留地の歴史についてよくわかりました」「神戸に多くの仏像が存在していることが興味深かった」「神戸市の美術館の開館の経緯に川崎正蔵や池長孟が関わっていたと知り、彼らのようなコレクターの重要性に気付くことができた」などの感想があった。</p> <p>※このうち、4月27日・5月11日・5月18日の3回については、兵庫県下に緊急事態宣言が発令された影響により、zoomを使用したオンライン開催となった。</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった「神戸研究総論」について、本年度は予定された回すべてに出講することができた。館内のweb会議設備も整ったことで、緊急事態宣言発令中のzoomを使用したオンライン講義への切り替えへも、スムーズに対応することができた。 	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none"> 神戸外国語大学との連携においては、本年度は具体的に事業を実施できなかった。

3-3-02-03 博物館実習		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
<p>P課題と目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生が安心・満足して実習課題に取り組めるように、PDCAサイクルを意識したプログラムを作成し、できるかぎりフィードバックの時間を充実させる。 学生からの「当館での実習希望理由」をもとに、関心の高い内容(震災、展示方法等)について、実習内容に反映させることで、学びを深める。 新型コロナウイルス感染症対策を実施しつつ、学生に実りある実習プログラムを組み、安全に遂行する。 	<p>D実施内容</p> <p>【実習生募集と受入】</p> <ul style="list-style-type: none"> 3月5日 当館HPにて実習生募集を開始。 4月30日 申込締切(消印有効)。定員16人(8人×2班)に対して、18校25名より応募があった。 5月18日 書類選考の結果、12校16人にコロナに伴う条件付きの受入予定通知及び受講料納付書を送付。 7月15日 受入大学及び実習生に対して、実習プログラム、実習課題の詳細と注意事項を通知。 <p>【実習日程】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第1班:8月17日～8月21日 5日間 8人 第2班:8月24日～8月28日 5日間 8人 <p>【実習内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> 別紙参照 <p>【コロナ対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 感染対策を考慮した実習プログラムを進めるため、定員を従前の30人(15人×2班)から16人(8人×2班)に変更した。 日々、自宅及び博物館にて検温し、チェックシートを提出。 受講生、講師ともマスク着用。適宜手洗い、アルコール消毒を実施。 実習生の滞在時間短縮のため、実習日数・時間は文科省の「博物館実習ガイドライン」最低限の5日間・30時間とした。 講義は、通常よりも広い講堂を使用。「日博協ガイドライン」に基づき、座席は原則として指定席とし、十分な座席の間隔(四方を空けた席配置等)を確保し、換気をはかった。 資料取扱は1班4人の2班編成とし、実習生と学芸員が密にならないようにした。 昼食、休憩は2室に分散した。 <p>【実習課題】「鑑賞ガイドの作成」</p> <p>当館学芸員となった前提で、神戸の歴史展示・コレクション展示、ホールケースに展示中の作品・資料から必ず1点以上を選び、鑑賞ガイドの作成を課した。鑑賞ガイドのサイズ、形態、枚数、製作方法は問わず、受講生の自由な発想で取り組むこととした。最終日に各受講生の作成した鑑賞ガイドを体験した後、鑑賞ガイドの製作意図や工夫した点などの発表を課した。</p>	<p>自己評価の詳細 プラス面</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度に続いてコロナ禍での実施となったが、定員やプログラム、実習課題の見直し、少人数での活動、部屋の換気、消毒・検温の徹底などを工夫することで、実習生、職員とも健康に留意し、感染者が出ず、全実習生が実習を修了できた。 コロナ禍の実習課題として、各自が鑑賞ガイドを作成するかたちを採用した。作成にあたっては、PDCAサイクルを意識して日々学生に作成時間を設け、学芸員によるヒアリングとフィードバックを行った。斬新かつ柔軟な発想により、各実習生の独自性に富むガイドが作成され、実習生はもとより当館学芸員にとっても大きな学びの機会となった。 学生からの「当館での実習希望理由」にも寄せられた、阪神・淡路大震災における当館の被災状況に関する講義を新たに実施した。震災時から当館に勤める学芸員の経験、体験を直接聴くことは、震災後に生まれた実習生にとって大きな機会となった。当館の若手学芸員への継承としても、意義深い講義となった。 	<p>自己評価の詳細 マイナス面</p> <ul style="list-style-type: none"> 実習プログラムや部屋の大きさの都合、定員を減じなければならなかった。結果として、当館を希望する一部の学生を受け入れられなかった。 初めて書類選考を行うこととなり、大学や学生への受け入れ可否通知にも時間を要した。

3-3-03 学習支援交流員

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大によって、活動が制限されたことから学習支援交流員の満足度を満たすことはあまりできなかった。しかし、自主的にワークショップの継承のための取り組みを続けたことは、年度末に行われた「こども本の森」でのイベントに活かされた。新たに13人の登録があったことから関心は高く、今後、活動が再開されていくにあたっての原動力になっていくものと考えられる。

3-3-03-01 学習支援交流員の活動(定例会・研修・活動人数)

自己評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標

- ・学習支援交流員の定例会・勉強会・研修を開催する。
- ・学習支援交流員の現状を踏まえた規約の見直しと改正を行うことについて検討する。
- ・担当の職員だけでなく、他の学芸員、指導主事、交流員が意見交換しながら、学習支援交流員の活動に関与を深める。
- ・学習支援交流員の新規募集に向けて準備を進める。
- ・学習支援交流員の活動に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための適切な対策をとる。

D実施内容

- ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月25日～10月17日の学習支援交流員の活動全体を停止した。(7、8、10月定例会は開催)
- 【定例会・勉強会】
 - ・定例会:原則毎月第1金曜日午後2時から実施。全8回(5、6、9月は緊急事態宣言が発令、11月は博物館空調工事のため中止)、延べ203人参加(各回平均25.4人)
 - ・学芸員講師による勉強会:1回、35人参加。
- 【研修会】
 - ・計3回(登録のための研修会を実施、1回は外部講師による) 延べ90人参加。
 - ※欠席者には動画視聴で対応。
- 【博物館事業支援】
 - ・8回、延べ127人
- 【来館しての活動】
 - ・ワークショップの準備、勉強会等:計40回、延べ257人
- 【規約の見直しと改正】
 - ・規約の内容の再確認や課題、問題点を検討し、改正へ向けた準備を行った。
- 【学習支援交流員の募集】
 - ・令和3年度学習支援交流員25人、学習支援交流員アドバイザー18人 合計43人
 - 6月11日(金)～8月13日(金)の応募期間で新規募集、14人が申込、13人が登録。
 - ※令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大により生じた、募集・活動開始日程の変更の是正、及び登録者増加により、十分な広さを確保できる活動場所の提供が困難なため、新規募集は行わない。

自己評価の詳細 プラス面

- ・新型コロナウイルス感染症拡大によって、学習支援交流員の活動が制限される中において、可能な限り定例会を開催して情報共有を行った。また、定例会を通常開催している講堂以外に、展示室も活用することによって、定例会開催の機会を増やした。
- ・次回定例会の実施や連絡事項をメールで連絡(一部は電話連絡)して、情報共有を行った。
- ・定例会欠席者へ会議資料をメール送信して、活動予定などの情報共有を試行した。好評だったため今後も継続することにした。
- ・上半期から新規募集の準備を行い、6月～8月にかけて募集を実施した。今年度は新たに13人が登録した。
- ・小人数でのグループ分け、活動場所を別にすることによって、博物館事業支援、ワークショップ準備・勉強会を再開した。活動場所ではドア開放、サーキュレーター稼働を行い、感染防止に努めた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大によって生じた、募集・活動日程の変更を是正するため、来年度の新規募集を中止した。
- ・定例会の議事録を担当以外の職員にも回覧することを開始した。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・新型コロナウイルス感染症拡大によって、学習支援交流員の活動が制限され、学習支援交流員・活動アドバイザーの満足度を満たすことができなかった。
- ・展覧会、教育普及等に伴う関連事業は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の面から職員で対応したため、学習支援交流員が参加できなかった。
- ・学習支援交流員の活動日等について、担当以外の職員への周知が不十分であった。

P課題と目標

- ・体験学習室、各種イベントでのワークショップの実施。
- ・居留地ガイドの実施。
- ・新規ワークショップの開発に取り組む。
- ・既存のワークショップの技術、知識を交流員間で共有する機会を設ける。また、技術継承のためのマニュアルを作成する。
- ・上記の取り組みを円滑に実施できるように、学芸員は適切な助言や補助、広報、資材等の調達を行う。
- ・上記の取り組みに新型コロナウイルス感染症拡大防止策を行い、安全な状況でワークショップを実施する。

D実施内容

- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月25日～10月17日の学習支援交流員の活動全体を停止した。
 - ・体験学習室、居留地探検ガイド、各種イベントでのワークショップの停止は今年度も継続。
 - ・新規登録の学習支援交流員への技術伝承と交流員間の技術・知識の共有を行い、新規ワークショップの開発にも取り組んだ。
- 【ワークショップの準備、道具のメンテナンス】
- ・各種ワークショップの再開に向けた準備と共に、技術・知識の継承と共有を行う。：計39回、延べ253人
- 【新規ワークショップの開発】
- 1件：万華鏡をつくろう
- 【屋外型イベントにおけるワークショップの開催】
- 令和4年3月30日(水)「集まれ！こども本の森」に参加してワークショップを開催。
- 参加交流員：23人
- 開催内容
- ・伊能忠敬紙芝居&歩測体験(整理券配布)：参加者104人
 - ・紙コップで銅鐸をつくろう！(整理券なし)：50セット用意、参加者50人(配布終了)
 - ・おきしお号展開：参加者200人

自己評価の詳細 プラス面

- ・新型コロナウイルス感染症拡大によって停止されている各種ワークショップの内容を勉強会で再確認した。また、材料の準備、道具のメンテナンスを行い、再開に向けた準備を整えた。
- ・新規ワークショップの開発と勉強会を行い、内容の充実に向けて取り組むことができた。
- ・屋外型のイベント「集まれ！こども本の森」に参加して、ワークショップを再開することができた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・体験学習室、各種イベントでの来館者向けワークショップ、居留地探検ガイド等を開催することができなかった。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大によって活動が制限された。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、人数制限、活動場所が制限され、十分な広さを確保した活動場所を提供することができなかった。

3-3-04 地域連携・共催事業

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 コロナ禍でありながら、各区文化センターなどでの講座を維持できたので、この流れを令和4年度につなげていきたい。阪神間美術館・博物館連絡協議会(木曜会)やKOBEMUSEUM LINKについてはコロナ禍でもあり、特筆すべき成果をあげることができなかったものの、連携関係を途切れることなく継続することができた。引き続き、当館にとっても有益となる地域連携のあり方を模索する必要がある。それ以外の個別の事業への参加・協力を行ったが、コロナ禍の規制緩和によって様々な事業への参加依頼が増加することが見込まれる。当館が参加する意義と、そこに投じる時間・マンパワーについても慎重な吟味が必要となるであろう。

3-3-04-01 地域連携・共催事業(神戸市民文化振興財団、木曜会などの連携含む) B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

P課題と目標	D実施内容	自己評価の詳細 プラス面	自己評価の詳細 マイナス面
地域の関係団体と連携し、博物館独自の強みやスキルを活かした事業を実施する。 【令和2年度実績】 勤労市民センター講座 2回、84人 婦人大学 1回 44人 ミュージアム・コンサートの開催 KOBEMUSEUM LINK、はいからプロジェクト、木曜会への参画	【神戸いきいき勤労財団との連携事業による勤労市民センターの講座】 1回開催 のべ45人参加 【神戸市文化振興財団との連携事業による文化センター地域セミナー】 6回開催 のべ165人参加 【婦人大学】 9月8日 「神戸市立博物館プレ講義」 38人 【阪神間美術館・博物館連絡協議会(木曜会)】 新型コロナウイルス感染症の拡大により対面形式での会議は基本的に開催せず、メールを通じての情報共有を実施した。 感染症対策として、会費で会員館に希望を聞き取り、それぞれの館にアルコール消毒液や検温機能付きのディスペンサーなどを購入した。 【KOBEMUSEUM LINK】 2022年1月7日～3月27日、スマートフォンを用いた非接触型の「デジタルスタンプラリー」に参加。 【はいからプロジェクト(旧居留地連絡協議会)】 「オンライン旧居留地名所巡り」(講座:2021年12月18日)開催に協力 【その他】 「ちょこっと関西歴史たび」(講座:2月19日、3月12日)開催に協力 「集まれ!こども本の森 開館記念イベント」(ワークショップ・おきしお出展:2022年3月30日)開催に参加	文化センターでのセミナーでは、前年より参加者が増え、より多くの人に講座を楽しんでもらうことができた。 また、「こども本の森」にかかるイベントでは、おきしお号を展開したり、学習支援交流員がワークショップを主導するなど、地域連携のみに限らない広い連携活動を行うことができた。	特に「関西歴史たび」にかかるイベントでは、館内での連絡や報告が不足、学芸課・管理課間や、ショップなどの委託業者との連携がうまく取れなかった。

4. やさしさと安心の確保

評価B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 求められる役割は、果たせたと考えられるが、大きな改善等には結びついたとまでは言えない。予算確保は困難であるため、日々業務の中で来館者の目線に立ったサービスの提供や環境の維持・改善に結びつくよう、できることから着実に進めていく必要がある。

4-4-01 施設管理

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 施設の老朽化が進んでおり、随時修繕・改修工事を進めていくべきであるが、予算の制約から、思うような修繕・改修を行えなかった。予定されていた改修・修繕工事に関しては、事故もなく完了することができた。

設備に関しては、ボイラー等の設備の老朽化から温湿度管理に支障がでないように、施設・設備受託事業者が経験と技術を駆使し、最善を尽くし対応しているが、十分な対応ができない場合もあるとの意見を受けている。今後も関係部局と連携し、必要な予算確保に努めていく必要がある。

4-4-01-01 建物・設備の現状と課題、長寿命化の計画と対策	自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
----------------------------------	------	---------------------------

P課題と目標

- 法令で定期点検や訓練が必要な事項については、すべてクリアするべく予算計上し、執行するよう努める。
- 新しい規格に合う設備や施設を更新していく。
- 設備総括管理業務の委託業者と連携し、設備等の情報共有を深めるとともに、計画性を持って設備保守点検等を実施する。

D実施内容

- 【通常点検業務】**
- エレベーターや消防設備等の点検、その他法定点検を実施し、不備があれば適切な修理や古い部品の更新を行った。
 - 設備機器の運転・管理を適切に行った。
- 【営繕工事関係】**
- 空調機(送風機)の更新工事を行った。
 - 消防設備の不具合箇所の改修工事を行った。
 - 駐車場オーバードアの補修工事を行った。
 - Wi-Fi環境「Kobe Free Wi-Fi」の整備工事を行った。

自己評価の詳細 プラス面

- 設備総括管理業務を委託している業者と連携を密にとりながら、適切な設備の維持管理と改修工事、改修計画を確実に行った。
- Wi-Fi環境を整備し、来館者へのサービス向上を図った。

自己評価の詳細 マイナス面

- 設備自体の老朽化が進んだものが多く、経常的な予算での十分な補修は困難な状況である。
- 次年度以降、営繕工事関係の予算確保に努めていく必要がある。

4-4-02 インフォメーション、ショップ・カフェ

評価 A 優れている

評価の詳細 常設展インフォメーションに関しては、来館者目線に立った対応を日頃から行われており、また、その目線からの業務改善を自ら行うとともに、提案も積極的に行われている。また、管理課との日々の情報共有、業務連携も良好に行われ、来館者サービス向上に結びついている。
ショップ・カフェについては、受託業者と連携し、積極的にJRの観光イベントや市内博物館・美術館で企画した各館のPRグッズ開発にも参加したことで、神戸市立博物館の魅力発信につながった。

自己評価 A 優れている

4-4-02-01 インフォメーション

P課題と目標

- ・適切な業者選定を行うこと
- ・インフォメーション及び2階コレクション展示入口での業務を円滑に実施すること
- ・事務室内での電話対応を円滑に行うこと
- ・日報を正確に作成するとともに、入館者情報を適時的確に把握していくこと

D実施内容

- ・インフォメーションスタッフについては、厳正に業者選定を行った。
- ・マニュアルに基づき、インフォメーションスタッフへの研修等を実施し、各自実践を通じて順調に業務が行われている。
- ・日報・月報、入館者情報等、的確に報告を受けている。
- ・入館者への案内を迅速、親切、丁寧に行っており、苦情にも粘り強く対応している。
- ・インフォメーションスタッフは、常に博物館職員や警備、清掃等の館内関係者との連携を図り、来館者の立場に立った対応を行った。
- ・博物館職員や警備、清掃スタッフ等からなる館内連絡会を開催。インフォメーションスタッフからは、来館者目線の改善点の指摘など、円滑な運営につながる意見が出され、運営改善に役立った。

自己評価の詳細 プラス面

- ・職員とインフォメーションスタッフとの円滑な業務の遂行ができた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策が時事変化する中、インフォメーションスタッフとの情報共有を行いながら臨機応変の最善の対応が行うことができた。
- ・インフォメーションスタッフにおける、来館者目線からの対応により、来館者の満足度の増進が図れた。

自己評価の詳細 マイナス面

- ・特になし

4-4-02-02 ミュージアムショップ・カフェ

P課題と目標

公募型企画提案で選定した事業運営者は3年目であり、入館者に喜ばれる質の高いサービスを提供する。

D実施内容

- ・カフェでは、神戸牛や神戸ポーク、地元産野菜などを多用するなど地産地消を積極的に取り入れ、美味は勿論のこと近年の健康志向にもマッチしたメニュー作りを創造している。
- ・図録等の委託販売については、通信販売も含め創意工夫された。また、本年から消費税も含んだ表示価格を消費者に提示するよう消費税法が改正されたが、法改正にも適切に取り組まれた。
- ・カフェ・ショップに必要と考えられる観光情報・関係機関情報を適時、共有することによりJRの観光イベントの参加や新商品の開発・販売が積極的に行われ、博物館の魅力発信につながった。

自己評価の詳細 プラス面

- ・昭和初期のレトロで趣のある当館の雰囲気を十分に生かした店舗づくりが行われている。加えて、メニューづくりにも創意工夫しながら魅力あるカフェ・ショップづくりが実現している。
- ・飲食物やグッズ販売にとどまらず、受託業者とともに工夫をこなし、博物館の魅力が発信した。

自己評価 A 優れている

自己評価の詳細 マイナス面

- ・特になし

4-4-03 警備、清掃

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 機械警備に関しては、契約どおりに履行を受け、特に、緊急通報等の対応はなかった。人的警備に関して、契約どおりの履行を受けている。
清掃に関しては、契約どおりの履行以外に、博物館の衛生環境の保持のために必要と思われる清掃対応を依頼することもあったが、業務は誠実に行われた。

4-4-03-01 警備		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 <ul style="list-style-type: none">適切な業者選定を行うこと展示・館蔵資料の良好な保存環境の保持と、盗難・破損からの保護、並びに来館者への快適な鑑賞空間の提供のため、万全な警備を実施すること	D実施内容 <ul style="list-style-type: none">機械警備については、午後10時から翌日午前5時まで実施。人的警備については、通常2人体制、夜間は24時間勤務の1人体制で常駐警備を実施。休館日、臨時休館日については、1人体制で実施。西側通用門における入館者チェックを厳格に行い、不測の事態に備えた。館内外の巡回警備を適切に実施。	自己評価の詳細 プラス面 <ul style="list-style-type: none">立哨警備及び巡回警備についても、特に問題なく業務遂行ができた。開館時の正門の開門時についても、時間を厳守し、丁寧な業務が遂行できた。	自己評価の詳細 マイナス面 <ul style="list-style-type: none">適切な業務履行を受けているが、より万全な警備体制とするため、改善の提案などを業者からも積極的に引き出していく必要がある。
4-4-03-02 清掃		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 <ul style="list-style-type: none">適切な業者選定を行うこと清掃業務は開館日は3人体制、臨時休館日は2人体制で適切に実施すること	D実施内容 <ul style="list-style-type: none">日常清掃、定期清掃(年2回)ともに適切に実施した。展示室、回廊、ホール、トイレなど入館者が利用する場所、施設側が使用する事務室等の場所を手順に従い、適切に業務を実施した。特に、新型コロナウイルス感染症拡大を防止するために、殺菌等も含めきめ細かく清掃を実施した。	自己評価の詳細 プラス面 <ul style="list-style-type: none">日常清掃、定期清掃業務を適切・確実に実施できた。	自己評価の詳細 マイナス面 <ul style="list-style-type: none">適切な業務履行を受けているが、より適切な清掃を実施するため、改善の提案などを業者からも積極的に引き出していく必要がある。

4-4-04 緊急対応

評価 B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)

評価の詳細 来館者の体調不良やケガ等に対する緊急対応に関しては、遅滞なく、また、相手方の状況・希望を踏まえ、適切な対応を行った。
幸い、事件、事故、災害の発生はなかったが、報知器の作動時や来館者からの苦情対応に対して、迅速な対応がでなかった時もあった。

4-4-04-01 緊急事態への対応状況(来館者対応、事件・事故・災害対応)		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 想定外の事態にも対応できるように、全ての職員・スタッフがどう対処するかを常に意識しておくこと。	D実施内容 ・来館者の体調・ケガ等の対応に関しては、適時スタッフ間の連携により、本人への体調確認や同伴者等からの情報収集を円滑に行い、救護室への案内や救急車の要請等、円滑に行うことができた。 ・また、コロナ禍の中、措置後の救護室等の消毒等も漏れなく、円滑に実施できた。 ・幸い、事件・事故・災害の発生はなかったが、報知器の誤作動は複数回発生しており、即時の現場や原因確認等の十分な対応が実施できていない時もみられた。	自己評価の詳細 プラス面 ・想定外の事態の発生は無かったが、全ての職員・スタッフが万が一の時にはどう対処すべきかを常に意識しておくことができた。	自己評価の詳細 マイナス面 緊急事態を未然に防ぐための工夫を常日頃から考える必要がある。 些細な事象にも、大きなリスクがある場合もあることを常に認識し、行動する必要がある。
4-4-04-02 大規模災害への対応策		自己評価	B 標準(求められる能力や役割を果たしている状態)
P課題と目標 ・神戸市立博物館消防・救急計画の周知徹底 ・実態に即した避難訓練の実施 ・新型コロナウイルス感染症対策	D実施内容 ・特別展(東山魁夷展・大英博物館ミイラ展)開催前日に、消防避難訓練を実施した。 ・出火場所に応じた、適切な避難誘導が必要であることをスタッフ全員で情報を共有した。 ・新型コロナウイルス感染症対策として、次の項目をそれぞれ実施した。 ①来館者へ、マスクの着用、検温、手指の消毒への協力をお願いし、対策の徹底を図った。 ②事務室等のアルコール消毒液の設置、インフォメーションに接客用アクリル板を設置するとともに、混雑時等において安全な距離が保てない場合にはマスク着用に加えてフェイスシールドも併用するなど職員やスタッフの安全を確保した。 ③展覧会における観覧者の密を避けるため、国際美術館会議が定める3㎡/1人の入場制限基準を設定した。ただし、制限に至るまでの入場者数に到達することはなかった。	自己評価の詳細 プラス面 ・消防避難訓練を通じて、職員・スタッフの防災への意識付けができた。 ・新型コロナウイルス感染症への対策を確実に実施した。	自己評価の詳細 マイナス面 阪神淡路大震災から27年が経過し、当館職員の大半が当時の経験を持たない職員構成となっている。館内連絡会等で当時の経験など伝承することが課題となっている。

普及事業
(1) 一般向け事業

① 展覧会に関する一般向け事業

●特別展 東山魁夷 唐招提寺御影堂障壁画展

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、予定されていた下記の関連事業はすべて中止。

1. 記念講演会

月 日	タイトル	講 師	参加者
4月24日	東山魁夷 人と芸術	尾崎 正明氏 (茨城県近代美術館館長)	(中止)

2. イブニングレクチャー

月 日	内容	講 師	参加者
毎週土曜	展覧会のみどころ解説 (全7回)	当館学芸員	(中止)

3. 未就学児と保護者、障がいのある方のための特別鑑賞日

月 日	内容	講 師	参加者
5月10日	休館日を利用した特別鑑賞日	—	(中止)

●伊能図上呈 200年記念特別展 伊能忠敬

1. 伊能図完成200年記念シンポジウム「伊能図の魅力を科学する！」

月 日	内容	講 師	参加者
7月17日	千葉県香取市の会場とオンライン中継をし、合同シンポジウムを開催	平井 松午氏 (徳島大学名誉教授) 塚本 章宏氏 (徳島大学) 小野田一幸氏 (神戸市立博物館)	36人

2. スペシャル・トーク「伊能図トーク」

月 日	内容	講 師	参加者
8月7日	特別展出品の伊能図について、所蔵館ごとにその伝来や特徴を紹介	平井 松午氏 (徳島大学名誉教授) 塚本 章宏氏 (徳島大学) 紺野 浩幸氏 (伊能忠敬記念館)	30人

		小野田 一幸 (神戸市立博物館) 永山 未沙希 (神戸市立博物館)	
--	--	--	--

3. 記念講演会

月 日	内容	講 師	参加者
8月 21日	伊能図の伝播と地域社会—大村藩天文方・峰源助について	平岡 隆二氏 (京都大学人文科学研究所)	(中止)

4. 学芸員による展示解説会

月 日	内容	講 師	参加者
毎週土曜	展覧会のみどころ解説 (全4回)	当館学芸員	153人

●特別展 大英博物館ミイラ展 古代エジプト6つの物語

1. 記念講演会

月 日	タイトル	講 師	参加者
2月 27日	大英博物館ミイラ展の見どころ—古代エジプトの埋葬習慣と来世観—	河合 望氏 (金沢大学教授)	40人

2. 学芸員による展示解説会

月 日	内容	講 師	参加者
毎週金曜	展覧会のみどころ解説 (全7回)	当館学芸員	236人

3. 未就学児向け鑑賞会

月 日	内容	講 師	参加者
3月 7日	休館日を利用した特別鑑賞日	—	64人

4. 障がい者向け鑑賞会

月 日	内容	講 師	参加者
3月 7日	休館日を利用した特別鑑賞日	—	131人

② ミュージアム講座

月 日	タイトル	講 師	参加者
10月 21日	戦後の昭和と小磯良平	高橋 佳苗	35人

11月19日	近世の刊行道中図	鈴木 更紗	32人
12月16日	青銅の鐸～青銅の鐘	山本 雅和	35人

③ 学芸員と神戸を巡る「古仏巡礼—神戸の古層にふれる旅—」

月 日	内容	講 師	参加者
11月14日	事前講座	川野 憲一	15人
11月21日	現地見学		

④ ギャラリートーク

月 日	内容	講 師	参加者
4月3日	港町神戸の中世	三好 俊	10人
4月10日	輸出漆器	中山 創太	6人
4月17日	西洋古版図 I	永山 未沙希	7人
6月26日	よみがえる黄金の輝き	阿部 功	6人
7月3日	天球全図	塚原 晃	9人
7月11日	太山寺文書からみる中世の神戸	三好 俊	5人
7月18日	大阪近代のガラス	中山 創太	6人
7月25日	四季の祈り	川野 憲一	9人
8月1日	五色塚古墳	阿部 功	8人
8月15日	手彫り薩摩切子	中山 創太	5人

⑤ 浮世絵の摺り師に挑戦！（おとなの部）

月 日	内容	講 師	参加者
6月27日	本格的な復刻版木を使った浮世絵の摺りを体験する講座	—	6人

（2）子供向け事業・学校との連携事業

① ジュニアミュージアム講座

月 日	タイトル	参加者
5月2日	水墨画で描く山の風景	（中止）

8月1日	コーヒー染めで作るアンティーク古地図	14人
------	--------------------	-----

② 浮世絵の摺り師に挑戦！（こどもの部）

月 日	内容	参加者
6月27日	本格的な復刻版木を使った浮世絵の摺りを体験する講座	8人

③ 夏休み土器作り教室

月 日	内容	参加者
7月24日	成形	10人
7月25日	成形	10人
8月8日	焼成日	19人

④ 博物館たんけん隊

月 日	内容	参加者
8月22日	バックヤードツアー	(中止)

⑤ こうべ歴史たんけん隊

月 日	タイトル	参加者
3月13日	神戸の古代遺跡を見学しよう！	18人

⑥ こどもの日スペシャル

月 日	内容	参加者
5月5日	親子鑑賞会	(中止)

⑦ 学校授業への職員派遣

年間	75校(小学校 123、中学校 16、高等学校 1、特別支援学校 3)、のべ 143校 400 授業時数、10,330 人 連携授業内訳: 古代体験 17 回 / 土器 3 回 / 銅鐸 3 回 / 源平 25 回 / 西洋 29 回 / 伊能図 24 回 / 文明開化 18 回 / 浮世絵入門 14 回 / 水墨画 5 回 / 港の発展 3 回 / その他 2 回 学芸員の同行: 学芸員 9 人、のべ 23 校の授業。より専門的な講話、資料活用を実施。
----	--

⑧ 学校来館対応

年間	32校(小 6、中 24、高 2)、2,082人 (オリエンテーションはオンラインで1回実施。)
----	--

⑨ 移動博物館車「おきしお夢はこぶ号」の活動	
年間	16回 学校 16校

⑩ 職業インタビュー（トライやる・ウィークの代替）	
年間	3校 14人

(3) 学習支援交流員活動

年間活動回数・活動参加者総合計（延べ人数）	実施回数 100回	参加総人数 988人
内容	実施回数	参加交流員
博物館企画の体験講座・ワークショップ等補助	1	23人
学校団体来館対応（学習室での学習支援と交流）	0	-
トライやる・ウィーク等の学習支援	0	-
特別展開関連行事支援（開会式・講演会等）	0	-
ミュージアム講座に伴う活動支援	0	-
一般来館対応（学習室での学習支援と交流・館内案内）	0	-
アンケート集計・広報印刷物発送作業	8	127人
自主企画・運営ワークショップ検討会	40	257人
ワークショップの準備、道具のメンテナンス	39	253人
学芸員講師による勉強会	1	35人
登録および登録更新にかかる研修会	3	90人
定例会	8	203人

学習支援交流員によるワークショップ		
月 日	内容	参加者
	本年度は開催せず	-

(4) 共催・協力事業

① 神戸いきいき勤労財団との連携事業			
月 日	タイトル	講師	参加者
2月 26日	大英博物館 ミイラ展 古代エジプト6つの物語	中山 創太	45人

② 神戸市文化振興財団との連携事業による文化センター地域セミナー			
月 日	タイトル	講 師	参加者
9月14日	浮世絵に見る「異国趣味」	中山 創太	14人
9月25日	争乱の終結と神戸―遺された豊臣秀吉の足跡―	三好 俊	37人
9月29日	江戸時代の日本地図	永山 未沙希	30人
11月20日	長田を巡る信仰世界―交錯するカミと仏―	川野 憲一	19人
11月27日	外国人がみた明治時代の神戸	水嶋 彩乃	50人
1月13日	明石海峡をにらむオウ（王）の墓―古墳時代の垂水区―	阿部 功	15人

③ 婦人大学との連携事業			
月 日	タイトル	講 師	参加者
9月8日	神戸市立博物館プレ講義	中山 創太	38人